

# PowerCMS X User's Guide

Ver. 1.002 (Last Update : 2018/12/20)



# セットアップ<sup>°</sup>

## インストール要件

- PHP バージョン 7.0 以降
- MySQL 5.6 以降
- Libxml 2.7.8 以上

## PHP クラス

クラス	URL	必須
DOMDocument	<a href="http://php.net/manual/ja/class.domdocument.php">http://php.net/manual/ja/class.domdocument.php</a>	必須
libxml	<a href="http://php.net/manual/ja/book.libxml.php">http://php.net/manual/ja/book.libxml.php</a>	必須
PDO	<a href="http://php.net/manual/ja/class.pdo.php">http://php.net/manual/ja/class.pdo.php</a>	必須
JSON	<a href="http://php.net/manual/ja/ref.json.php">http://php.net/manual/ja/ref.json.php</a>	必須
SimpleXML	<a href="http://php.net/manual/ja/book.simplexml.php">http://php.net/manual/ja/book.simplexml.php</a>	必須
GD	<a href="http://php.net/manual/ja/book.image.php">http://php.net/manual/ja/book.image.php</a>	必須
Normalizer	<a href="http://php.net/manual/ja/class.normalizer.php">http://php.net/manual/ja/class.normalizer.php</a>	必須
xdiff	<a href="http://php.net/manual/ja/book.xdiff.php">http://php.net/manual/ja/book.xdiff.php</a>	必須
Memcached	<a href="http://php.net/manual/ja/book.memcached.php">http://php.net/manual/ja/book.memcached.php</a>	オプション

## PHP/ MySQL の設定

種別	設定項目	推奨値
PHP	max_input_vars	2000 以上
MySQL	max_allowed_packet	16MB 以上

データベースを作成し、設定ファイルに情報を記載します。

## powercmsx/db-config.php

PADO\_DB\_NAME、PADO\_DB\_HOST、PADO\_DB\_USER、PADO\_DB\_PASSWORD、PADO\_DB\_PORT を定数として定義します。

```
<?php
define( 'PADO_DB_NAME', 'powercmsx_dev' );
define( 'PADO_DB_HOST', 'localhost' );
define( 'PADO_DB_USER', 'root' );
define( 'PADO_DB_PASSWORD', 'xxxxxxxxxxxx' );
define( 'PADO_DB_PORT', '3306' );
```

```
// define( 'PADO_DB_COMPRESS', true );
```

## 定数 PADO\_DB\_COMPRESS

PADO\_DB\_COMPRESS を true に指定すると、InnoDB の圧縮テーブルを利用することができま  
す。この設定を途中で変更する場合、データベースのバックアップを行なった上で一時的に運用を  
止めて、 tools/PADO/compressDB.php を実行してください。(尚、true の他に "lz4" か  
"zlib"(MySQL5.7 の透過的ページ圧縮)を指定可能ですが、透過的ページ圧縮については現状サポー  
ト外となります)。

尚、 MySQL(5.6 以上が必要)において以下の 2 つのパラメータが必要です。

```
innodb_file_per_table = 1  
innodb_file_format = Barracuda
```

## powercmsx/config.json

このファイルを見られたくない場合は、別途 Web サーバーにて設定を行ってください。

```
{  
    "label"      : "Prototype",  
    "component"  : "Core",  
    "version"    : "0.1",  
    "author"     : "Alfasado Inc.",  
    "author_link": "https://alfasado.net/"  
}
```

config\_settings として配列でキーと値を追記すると、PowerCMS X の環境変数(プロパティ)を初  
期化時にセットします。

```
"config_settings": {  
    "temp_dir"   : "/tmp",  
    "max_packet" : false,  
    "site_domain": "www.powercmsx.jp"  
}
```

以下は、アプリケーションパス配下の.log、.json ファイルへのアクセスを制限する .htaccess の例  
です。

```
<Files ~ "^.log|.json$">
```

```
deny from all  
</Files>
```

## .htaccess / pt-view.php

公開サイトのドキュメントルートに.htaccess などで必要なリクエストを pt-view.php に渡すように設定します。

```
RewriteEngine On  
RewriteCond %{REQUEST_URI} !/pt-view.php  
RewriteRule ^(.*)$ /powercmsx/site/pt-view.php
```

- ダイナミック・パブリッシング、その他、画像の動的表示や、非公開コンテンツのログインユーザーによる確認などにこの設定が必要です。

## worker.php

定期実行タスクを cron に登録してください。

下記の例は crontab を直接編集する例で、1 分ごとに apache ユーザーがコマンドを実行します。  
時間・ユーザー・ディレクトリは適宜変更して下さい。

```
*/1 * * * * apache cd /var/www/admin; php tools/worker.php
```

# インストール

PowerCMS X

インストール

システムの設定

アプリ名 \*

コピーライト

認証

2段階認証を利用する

認証ロック回数

システムのメール \*

テンプレート記法

MT互換

サイトURL \*

サイト・パス \*

アップロード・パス

ファイルを出力

言語

ja

設定ファイルを正しく記載した状態で管理画面 /powercmx/index.php にアクセスすると、インストール画面が表示されます。

- アプリ名(画面左上に表示されます)
- コピーライト(フッタに表示されます)
- 2段階認証を利用する(ログイン後に届いたメールに記載されているトークンを使ってログインします)
- 認証ロック回数(ID、パスワードを連続して間違った時、ロックアウトされます)
- システムのメール(システムから送信されるメールのアドレスです)
- テンプレート記述(MT互換、Smarty互換から選択できます)
- サイト URL
- サイト・パス(Webサーバー上の公開パス)
- アップロード・パス(アイテムを格納するディレクトリ)
- 言語
- ユーザー名(ログイン ID)
- パスワード、パスワード(確認)
- メールアドレス
- 表示名
- 言語

以上を設定し、インストールをクリックします。

## テーマの適用

システムまたはワークスペースの「ツール」メニューから、テーマを選択することができます。テーマを適用できるのは、システム管理者、ワークスペース管理者または、「インポート&エクスポート」権限を有するユーザーです。

テーマとは、「ビュー」「URL マップ」「フォーム」「設問」をセットにしたものです。必要に応じて CSV エクスポートされたオブジェクト(追加オブジェクト)が含まれます。



既にビュー、URL マップ、フォーム、設問、追加オブジェクトが登録されている場合、以下のルールが適用されます。

- 「ビュー」の名前、ベースネーム、UUID のいずれかが同じものが既に存在する場合、上書きします。この時、元のオブジェクトは上書きされたビューのリビジョンになります。
- 上記に該当する場合、ビューに割り当てられている URL マッピングが上書きされます。該当しない場合は、指定されている URL マッピングが新たに生成されます。URL の重複がないかについては、チェックしてください。
- フォームと設問については、ベースネームが同様のものが存在する時、インポートはスキップされます。
- 追加オブジェクトについては、プライマリカラム(記事の場合はタイトル、カテゴリの場合はラベル)に同じものが存在する時、インポートはスキップされます。

# モデル(table)について

PowerCMS X の拡張性を体験するために、まずはモデルを作成してみましょう。ここでは、バナー画像を管理する「banner」モデルを作成します。

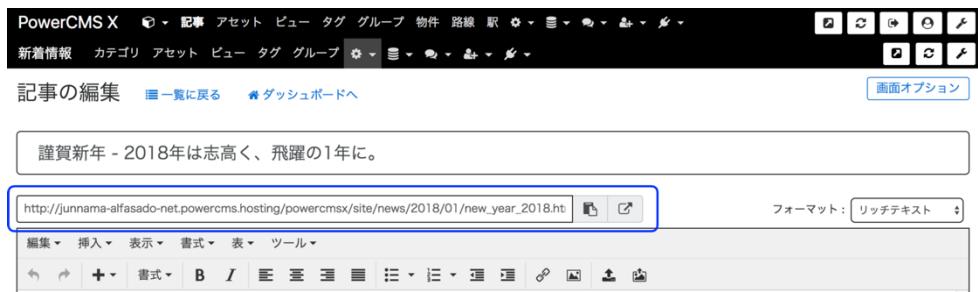
- ヘッダ > 歯車アイコン > モデルを選択します。「新しいモデル」をクリックします。
- 名前「banner」、ラベル「Banner」、複数形「Banners」と入力します。
- システムに表示、自動監査、テンプレート・タグ、リビジョン対応、ステータス対応、有効期限対応にチェックを入れます。メニュータイプは「パネル」を選択します。
- ここまで入力したら、保存をクリックして、モデルをシステムに登録します。
- データベースを見ると、banner テーブルが作成され、いくつかのカラムが生成されていると思います。

続いてカラムを追加します。

- カラム右横の「追加」をクリックし、名前「name」、ラベル「Name」、タイプ「テキスト(255)」、NOT NULL、インデックスにチェック、一覧表示「プライマリ」、編集表示「プライマリ」とし、行をドラッグして一番上の「id」の下に移動します。
- カラム右横の「カラム」をクリックし、名前「image」、ラベル「Image」、タイプ「バイナリ」、一覧表示「なし」、編集表示「ファイル」とし、行をドラッグして「name」の下に移動します。続いて「詳細」ボタンをクリックし、ダイアログの編集表示 > タイプに「画像」を指定し「変更を保存」をクリックしてダイアログを閉じます。
- カラム右横の「カラム」をクリックし、名前「url」、ラベル「URL」、タイプ「テキスト(255)」、インデックスにチェック、一覧表示「テキスト」、編集表示「テキスト」とし、行をドラッグして「image」の下に移動します。
- ここまで入力したら、「保存」をクリックします。
- 「プライマリ」ドロップダウンで「名前」を選択して、もう一度「保存」をクリックします。

The screenshot shows the PowerCMS X Model Editor interface. At the top, there's a green header bar with the message '変更を保存しました。' (Changes saved). Below it, the 'Model Editor' tab is selected. The main area shows the 'banner' model configuration with fields for Name, Label, Plural Label, Description, Version, Primary Key, Options, and a preview section. In the bottom right corner of the main window, there's a '画面オプション' (Screen Options) button.

Below the main window, a 'Columns Details' dialog is open. It lists various columns with their properties: name, type, display order, nullability, uniqueness, and editability. The 'image' column is being configured with a type of 'Binary', display order of 3, and a file editor. Other columns like 'published\_on' and 'unpublished\_on' have their types set to 'Date' and display orders of 6 and 7 respectively. The 'status' column has a type of 'Text' and display order of 9. The 'rev\_type' column has a type of 'Text' and display order of 10. The 'rev\_object\_id' column has a type of 'Text' and display order of 11. The 'rev\_changed' column has a type of 'Text' and display order of 12. The 'rev\_note' column has a type of 'Text' and display order of 13. The 'rev\_diff' column has a type of 'Text' and display order of 14. The 'created\_on' column has a type of 'Text' and display order of 15. The 'modified\_on' column has a type of 'Text' and display order of 16. The 'created\_by' column has a type of 'Text' and display order of 17. The 'modified\_by' column has a type of 'Text' and display order of 18. At the bottom of the dialog, there are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '変更を保存' (Save changes), and '削除' (Delete).



※編集表示をプライマリに設定すると、アーカイブの設定がある時編集画面のコントロールの下にパーマリンクと別ウィンドウで出力ページへリンクするボタンが表示されます。

ヘッダの「Banners」をクリック、「新しいBanner」を選択して、データエントリー画面ができていることを確認してください。

## モデルに対するカラムの設定について

PowerCMS X の「モデル」では、データベースの構造を定義すると同時に管理画面での表示のさせ方やテンプレート・タグ名などをまとめて指定することができます。

カラムの定義においては、リレーションナルデータベースへの理解があるほうが望ましいですが、以下の基本的な部分を理解いただければ SQL 文などの知識は必要ありません。

タイプ	作成されるカラム	説明
数値	数値型(int(11))	数値を保存する時、また、1対1のリレーションを指定する時に指定します。インデックスを指定することができます。
真偽値	数値型(int(4))	数値を保存する時、主にブーリアン型(真偽値)のデータを扱う際に指定します。インデックスを指定することができます。
テキスト(255)	文字列型(varchar(255))	256 文字未満の文字列を保存する時に指定します。インデックスを指定することができます。
テキスト	文字列型(mediumtext)	長いテキストを保存する時に指定します。インデックスを指定することはできません。
日付と時刻	日付型(datetime)	日付を保存する時に指定します。インデックスを指定することができます。
バイナリ	BLOB(longblob)	画像やファイルなどをバイナリ・ラージ・オブジェクトに保存する時に指定します。
リレーション	(作成されません)	この型を指定した場合、テーブルにカラムは作成されず、中間テーブルを介してオブジェクト同士を関連付けることができるようになります。主に、1対多の関連付けに利用します。

## カラムの設定と一覧/編集表示

カラムの定義とカラムに対する一覧/編集表示の設定により、管理画面が自動的に作られます。



Testの編集 一覧に戻る ダッシュボードへ 画面オプション

primary column	<input type="text" value="title"/> テキスト(255型+編集表示「プライマリ」)
text column	<input type="text" value="テキスト(255型+編集表示「テキスト」)"/>
text short	<input type="text" value="テキスト(255型+編集表示「短縮テキスト」)"/>
medium text	<input type="text" value="テキスト型+編集表示「テキストエリア」"/>
long blob	<div style="border: 1px dashed #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <input type="file"/> ファイルを選択... <span style="background-color: #0072bc; color: white; border: 1px solid #0072bc; padding: 2px 10px; border-radius: 5px; float: right;">バイナリ型+編集表示「ファイル」</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span><input checked="" type="checkbox"/> boolean</span> <span>真偽値型+編集表示「チェックボックス」</span> </div>
radio buttons	<span><input checked="" type="radio"/> 指定なし</span> <span><input type="radio"/> item_1</span> <span><input type="radio"/> item_2</span> <span>テキスト(255型+編集表示「選択項目」+タイプ「ラジオボタン」)</span>
dropdown	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; width: fit-content; margin-right: 10px;"> <span><input checked="" type="checkbox"/> 指定なし</span> <span>item_1</span> <span>item_2</span> <span>item_3</span> </div> <span>テキスト(255型+編集表示「選択項目」+タイプ「ドロップダウン」)</span>

保存 削除

rich text 編集 揃入 表示 書式 表 ツール

リッチテキスト テキスト型+編集表示「リッチテキスト」

attachment 
 ファイルを選択... 数値型+編集表示「リレーション」+モデル「添付ファイル」+タイプ「添付ファイル」

relation radio  指定なし  東京都  大阪府  京都府  神奈川県

relation dropdown 京都府 数値型+編集表示「リレーション」+モデル「area」+タイプ「ラジオボタン」

relation dialog 神奈川県 数値型+編集表示「リレーション」+モデル「area」+タイプ「ダイアログ」

保存 削除

checkbox areas リレーション型+編集表示「リレーション」+モデル「area」+タイプ「チェックボックス」  東京都  大阪府  京都府  神奈川県  関東地方  近畿地方

dialog areas リレーション型+編集表示「リレーション」+モデル「area」+タイプ「ダイアログ」 京都府 神奈川県 追加...

hierarchy 
 関東地方  
 東京都  
 神奈川県  
 近畿地方 リレーション型+編集表示「リレーション」+モデル「area」+タイプ「階層」  
 大阪府  
 京都府

attachment files 
 ファイルを選択... リレーション型+編集表示「リレーション」+モデル「添付ファイル」+タイプ「添付ファイル」

## ローカライズ

このままでは、ラベルが英語表記のままなので、ローカライズ(日本語化)を行ないます。

The screenshot shows the PowerCMS X localization interface. At the top, there's a navigation bar with 'PowerCMS X' and various menu items like '記事' (Article), 'アセット' (Asset), 'ビュー' (View), 'タグ' (Tag), 'グループ' (Group), 'Banners', and a settings icon. Below the navigation, the title '新しいフレーズ' (New Phrase) is displayed. There are three main input fields: 'フレーズ \*' containing 'Banner', '翻訳 \*' containing 'バナー', and '言語 \*' with a dropdown menu set to '日本語'. At the bottom, there are two buttons: a blue '保存' (Save) button and a white '保存して複製' (Save and Copy) button.

- ヘッダの⚙(歯車)アイコン > フレーズを選択して、「新しいフレーズ」ボタンをクリックします。
- フレーズ「Banner」、翻訳「バナー」、言語「日本語」として「保存して複製」をクリックします。
- そのままフレーズ「Banners」、翻訳「バナー」、言語「日本語」として「保存して複製」をクリックします。
- そのままフレーズ「banner」、翻訳「バナー」、言語「日本語」として「保存して複製」をクリックします。

ヘッダの表記が日本語されていることを確認し「バナー」をクリック、「新しいバナー」を選択して、データエントリー画面が日本語化されていることを確認してください。

## バナー登録のテスト

そのままバナーのデータエントリー画面からバナーを登録してみてください。名前と URL を入力、バナー画像をドラッグ&ドロップ、ステータスを「公開」として保存します。

## バナー画像のアップロード・パス、ファイル名のカスタマイズ

次にアップロードして登録する画像の URL を設定できるようにします。



- ヘッダ > 齒車アイコン > モデルを選択します。「banner」をクリックします。
- ファイル出力先に「banners」を指定、オプション > ベースネームにチェックを入れて、モデルを保存します。
- 再び、バナーのデータエントリー画面に行き、ベースネームにサーバー上で保存したいファイル名を入力して、バナーを保存します。サイト・パス/banners/ベースネーム+拡張子のパスに画像がアップロードされたことを確認してください。

## ビュー(Template)の作成

ビュー(Template)を作成して、登録したバナーを出力してみます。

- 画面最上部の「ビュー」を選択、「新しいビュー」をクリックします。

MT 互換

```
<mt:banners>
<mt:bannername />
</mt:banners>
```

## ビューのクラス

クラス	説明
アーカイブ	ファイル出力のためのビュー
モジュール	主に他のビューからインクルードするためのビュー
フォーム	アンケートフォームのビュー(後述)
検索	サイト内検索のためのビュー
メール	メール用のビュー

## ビューのベースネーム

ベースネームとは、システムまたはワークスペースで一意の文字列です。入力のない場合、自動的に生成されます。通常はベースネームの指定について意識する必要はありませんが、以下の用途に利用することができます。

- URL マップ(後述)の指定に mt:templatebasename タグを利用する場合。
- mt:include タグにタグ属性 basename を指定して読み込む場合。
- メールテンプレートの読み込み(ベースネームに「any\_path」を指定した場合、powercms/tmpl/email/any\_path.tmpl の代わりにこのビューが使われます)。

※チュートリアルを進めている方は、次のブロックを飛ばしてシステムオブジェクトを出力するテンプレート・タグへと進んでください。

## マークアップ記法

テンプレート・タグは大文字小文字を考慮せずに記述できます。タグの先頭と最後に'\$'を書いてもよく、接頭子の後に':'を付与することができます。終了タグの"/"は省略可能です。  
引数の不要なモデルファイアでは、属性値を省略できます。

## ファンクションタグ

```
<mtvar name="name" escape>, <mtvar name="name" escape="1">,
<MTVar name="name" escape />, <mt:getVar name="name" escape="1" />,
<Mt:var name="name" escape="1" />, <$mt:Getvar name="name" escape="1"$>,
<mt:Var name="name" escape="1" />...
```

## ブロックタグ

```
<mt:block param1="1" param2="2"> ... </mt:block>
```

## 条件タグ

```
<mt:if name="variable_name1">
  ...
<mt:elseif name="variable_name2">
  ...
<mt:else>
  ...
</mt:if>
```

## タグ属性(attribute)とグローバルモディファイア

文字列、変数(\$から始まるか.)を含む)、または配列(CSV)で値を渡します。

```
value   : <mt:var name="name">
array   : <mt:var name="array[key]">
or      : <mt:var name="array.key1.key2">
variable : <mt:var name="$variable">
or      : <mt:var name="$variable[key]">
request variable :
  <mt:var name="request.name">
    (HTTP リクエスト変数'$_REQUEST'から値を取得します。)
csv     : <mt:var name="name" replace=""value1','value2"">
or      : <mt:var name="name" replace="value1,value2">
        (<=タグの実装により)
```

CSV のフィールドの囲み文字、フィールドの区切り文字は PAML クラス(\$ctx)のプロパティです。

規定値 : \$csv\_enclosure = "" (囲み文字) / \$csv\_delimiter = ',' (区切り文字)

## テンプレート・タグ

### ファンクションタグ

#### **var**

変数から値を呼び出します。 タグ属性 value を指定した場合は setvar ファンクションタグと同じ動作になります。

#### タグ属性

- name(必須): 変数名
- value : 値をセットする場合、その値
- append : 既存の変数の後ろに、指定した値を連結します
- prepend : 既存の変数の前に、指定した値を連結します

#### **getvar**

テンプレート変数の値を出力します。 変数名が文字列であることがわかっている場合、'var'ではなく、こちらを指定してください(より高速)。

#### **setvar**

テンプレート変数に値を設定します。

#### タグ属性

- name(必須): 変数名
- var : 'name' の別名
- value : セットする値
- append : 既存の変数の後ろに、指定した値を連結します
- prepend : 既存の変数の前に、指定した値を連結します
- function : push(配列の末尾に追加)もしくは unshift(配列の先頭に追加)を指定
- key : 配列のキーに値を追加します

#### **trans**

値を翻訳します。 参考 => ./locale/ja.json

## タグ属性

- phrase : 翻訳する文字列
- params : sprintf 関数を使ってフォーマット整形する場合、渡す値  
複数の値を指定するときは CSV を指定します
- component : プラグイン・クラスの名前

## math

変数を計算します。

## タグ属性

- eq : 計算式

```
<mt:math eq="x + 1" x="$__value__" setvar="__value__">
```

この例では、`__value__` が「1」の時、`__value__` に「2」をセットします。

参考 => <https://www.smarty.net/docsv2/ja/language.function.math.tpl>

# Block Tags

## block

囲まれたブロックを1回だけ処理して内容を出力します。

`name` 属性が指定されていて、変数に値が格納されている場合はそちらが出力されます。

## タグ属性

- name : 結果を出力せずに変数に結果を格納します
- append : コンテンツを親テンプレートの `block` に追記します
- prepend : コンテンツを親テンプレートの `block` の前に置きます。
- その他の値を指定すると、ブロック内部でのみ利用できるローカル変数になります。

## loop

タグ属性 `name` または `from` で指定された配列またはオブジェクトをループ出力します。

## タグ属性

- name(必須): ループ出力する配列またはハッシュの変数名
- from : 'name' の別名
- key : 配列またはハッシュの「キー」を格納する変数名
- item : 配列またはハッシュの「値」を格納する変数名
- sort\_by : 配列の並べ替えの定義(例: sort\_by="value,numeric,reverse")
- glue : 繰り返し処理の際に、指定された文字列で各ブロックを連結します

## 予約変数

ループの回数に応じて自動的に以下の変数がセットされます

- \_\_first\_\_: ループの初回
- \_\_last\_\_: ループの最終回
- \_\_odd\_\_: ループの奇数回
- \_\_even\_\_: ループの偶数回
- \_\_counter\_\_: ループのカウンター
- \_\_index\_\_: ループのカウンター(0 から始まる)
- \_\_key\_\_: 配列またはハッシュのキー(タグ属性'key'の指定のない場合)
- \_\_value\_\_: 配列またはハッシュの値(タグ属性'item'の指定のない場合)
- \_\_total\_\_: 配列またはオブジェクトの数

## foreach

'loop'の別名です。

## for

指定された値の間、ブロックを繰り返し出力します。

## タグ属性

- to(end or loop) : 値を越えた場合、ループは終了します。省略した場合、1回ループします
- from(start) : ループの初期値。省略時は1となります
- increment(step) : 1回のループで増加する値(省略時は、1ずつ増加します)
- var : 「値」を格納する変数名(省略時は予約変数'\_\_value\_\_')
- glue : 繰り返し処理の際に、指定された文字列で各ブロックを連結します

## 予約変数

ループの回数に応じて自動的に以下の変数がセットされます。

- \_\_first\_\_: ループの初回
- \_\_last\_\_: ループの最終回

- `_odd_`: ループの奇数回
- `_even_`: ループの偶数回
- `_counter_`: ループのカウンター
- `_index_`: ループのカウンター(0 から始まる)
- `_value_`: 配列またはハッシュの値(タグ属性'var'の指定のない場合)
- `_total_`: 配列またはオブジェクトの数

## **section**

'for'の別名です。

## **ignore**

このブロックの中は出力されません(テンプレート・コメント)。

## **literal**

ブロックの内容はビルドされず、そのまま表示されます。

## **nocache**

テンプレートの特定の部分をページキャッシュの対象外にします。

## **setvarblock**

ブロックの内容を出力する代わりに変数に格納します。これは、何らかのブロックタグに'setvar'モディファイアを指定した時の動作と同じです。

## **タグ属性**

- `name`(必須): 変数名
- `append`: 既存の変数の後ろに、指定した値を連結します
- `prepend`: 既存の変数の前に、指定した値を連結します

## **capture**

setvarblock'の別名です。'name'属性の代わりに'var'属性を使ってください。

## **setvars**

各行ごとに記述された変数をまとめて設定します。キーと値の区切り文字は '='です。  
'name'属性を指定すると、その変数名に配列をセットします。

```
<mt:setvars>
_url      =http://www.example.com/
_site_name =MT
_site_desc =<mt:var name="description">
</mt:setvars>
```

## 条件タグ

### if

条件を満たした場合に内容を出力します。条件を満たさない場合に実行する場合は、unless 条件タグを使用するか、if 条件タグの中で else, elseif 条件タグを利用します。

#### タグ属性

- name(必須) : 変数名
- eq : 変数の値が属性値と同等である
- ne(not) : 変数の値が属性値と同等でない
- gt : 変数の値が属性値より大きい
- lt : 変数の値が属性値より小さい
- ge : 変数の値が属性値以上
- le : 変数の値が属性値以下
- like : 変数の値が属性値を含む
- test : 式を評価する

### ifgetvar

単に、name 属性に指定した変数の値の有無で分岐し、if 文より高速です。

### else

if または unless ブロックの中で、条件に一致しなかったときにこのタグ以降の内容が出力されます。

### elseif

if または unless ブロックの中で、別の条件を指定する時にこの条件タグを利用します。if 条件タグと同じタグ属性が利用できます。

### elseifgetvar

**if** ブロックの中で、別の条件を指定する時にこの条件タグを利用します。  
**ifgetvar** 条件タグと同じく name 属性に指定した変数の値の有無で分岐し、**elseif** 文より高速です。

## **unless**

条件を満たさなかった場合に内容を出力します。if 条件タグと同じタグ属性が利用できます。

# インクルードタグ

## **include**

現在のテンプレートに別のモジュールや外部ファイルの内容を含めます。**\$include\_paths** プロパティに含まれていないディレクトリ配下のファイルを含めることはできません。

### タグ属性

- **module** : インクルードするモジュールの名前
- **file** : インクルードするファイルのパス
- **workspace\_id** : モジュールのあるワークスペースの ID
- **cache\_key** : ユニークな値を指定すると、モジュールのビルド結果をキャッシュして高速化できます。
- その他のタグ属性で指定した値はインクルードしたファイル内部でのみ利用できるローカル変数になります。

# モディファイア

## **escape**

値を HTML エンティティに変換または url エンコードします。

### 属性値

- "1" or "html" (HTML エンティティに変換) or "url"

## **setvar**

出力されるべき値を出力せずに変数に格納します。

## **attribute**

- 変数名

## **format\_ts**

日付文字列をフォーマットします。

## **remove\_html**

HTML タグと PHP タグを削除します。

## **encode\_js**

JavaScript の文字列として扱えるように値をエスケープします。

## **upper\_case**

文字列を大文字にします。

## **lower\_case**

文字列を小文字にします。

## **trim**

文字列の先頭および末尾にあるホワイトスペースを取り除きます。

## **ltrim**

文字列の最初から空白(もしくはその他の文字)を取り除きます。

## **rtrim**

文字列の最後から空白(もしくはその他の文字)を取り除きます。

## **trim\_to**

指定したキャラクタ数で値を切り捨てます。

参考

=> [http://www.smarty.net/docsv2/ja/language.modifier.trim\\_to.html](http://www.smarty.net/docsv2/ja/language.modifier.trim_to.html) or [https://www.movabletype.jp/documentation/appendices/modifiers/trim\\_to.html](https://www.movabletype.jp/documentation/appendices/modifiers/trim_to.html)

## **zero\_pad**

指定した文字数になるよう、先頭の余白を 0 で埋めます。

## **strip\_linefeeds**

改行を削除します。

## **sprintf**

フォーマットされた文字列を返します。

## **nl2br**

改行文字の前に HTML の改行タグを挿入します。

## **replace**

検索文字列に一致したすべての文字列を置換します。

## **regex\_replace**

変数に対して正規表現による検索・置換を行います。

正規表現は、PHP マニュアルの [preg\\_replace\(\)](#) の構文を使用してください。

## **wrap**

指定した文字数でテキストを改行文字で折り返します。

## **trim\_space**

1を指定すると、ホワイトスペースをトリミングします。 2を指定すると、改行文字をトリミングします。 3を指定した場合、その両方となります。

## **to\_json**

テンプレート変数を指定して JSON 文字列を出力します。

## **from\_json**

JSON 文字列デコードして指定した変数にセットします。

## **eval**

テンプレートをビルドします。

## システムオブジェクトを出力するテンプレート・タグ

システムのデータベースに格納したデータを出力するテンプレート・タグは、モデルの設定により動的にシステムに登録されます。

- ブロックタグは、モデルの「複数形」に登録した文字列がタグ名になります。作成した「バナー」モデルをループ出力するblockタグは「mt:banners～/mt:banners」となります。
- 各カラムに対応したファンクションタグ名、blockタグ名は、モデルの「名前」+カラムの「名前」またはモデルの「名前」+カラムの「ラベル」がタグ名となります。
- バイナリデータ、ファイル型のカラムについては、モデルの「名前」+カラムの「名前」+URLとすることで、ファイルのURLが出力されます。
- リレーションとして複数のオブジェクトを関連付けるカラムを作成した時はモデルの「名前」+カラムの「名前」またはモデルの「名前」+カラムの「ラベル」で、複数のオブジェクトをループ出力するblockタグとして登録されます。

The screenshot shows two PowerCMS X interface windows. The top window is titled 'Model Editor' and displays a form for a 'banner' model. It has fields for 'Name' (with a required asterisk), 'Label' (Banner), and 'Plural' (Banners). The bottom window is titled 'Column Editor' and shows a grid of columns with their names, labels, and types. The columns are: id (Label: ID, Type: Number), name (Label: Name, Type: Text), image (Label: Image, Type: Binary), url (Label: URL, Type: Text), tags (Label: Tags, Type: Relation), and published\_on (Label: Publish Date, Type: Date).

モデル	カラム名	タグ名	種別	出力
Banner	URL	mt:bannerurl	ファンクションタグ	バナーの URL 欄に入力した 文字列
Banner	image	mt:bannerimageurl	ファンクションタグ	アップロード されたバナー のファイルの URL
Banner	tags	mt:bannertags～ /mt:bannertags	blockタグ	バナーに付 けられたタグを ループ出力
Entry	title	mt:entrytitle	ファンクションタグ	記事のタイト ル

※カラム名やラベルに「\_(アンダースコア)」を含む場合、タグ名では「\_」は省略されます。名前を「contact\_email」としたとき、タグ名は mt:entrycontactemail となります。

では、実際に作成したビューの画面で「プレビュー」をクリックして値が正しく出力されるかを確認してください。

```
<mt:banners>
<mt:bannername />
</mt:banners>
```

## グループの作成

グループとは、オブジェクトをフラットにグループ化して、順番を定義できるものです。登録したグループのデータは、ブロックタグで簡単に取り出すことができます。

- 最上部のメニューから「グループ」を選択、「新しいグループ」をクリックします。
- 「モデル」ドロップダウンから「バナー」を選択します。
- 「選択」ボタンで登録した複数のバナーを選択します。
- ドラッグ&ドロップで登録順を変えることができます。



## 作成したグループのビューの作成

登録したグループのデータをループ出力するビューを作成してみます。

- 画面最上部の「ビュー」を選択、「新しいビュー」をクリックします。

```
<mt:grouploop name="トップページ右バナー">
  <mt:bannername escape/>
  <mt:bannerimageurl />
  <mt:assetthumbnailurl name="file" height="70" square="1" />
</mt:grouploop>
```

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:grouploop	ブロックタグ	name(グループ名)	グループに登録したオブジェクトをループ出力します。
mt:bannername	ファンクションタグ	escape(HTMLエンティティをエスケープ)	アップロードされたバナーの名前
mt:bannerimageurl	ファンクションタグ		アップロードされたバナーのファイルの URL
mt:assetthumbnailurl	ファンクションタグ	name、height、width、square 等	バイナリ、ファイルタイプのカラムの名前をタグ属性に指定することで、画像ファイルのサムネイルを出力することができます。

実際に作成したビューの画面で「プレビュー」をクリックして値が正しく出力されるかを確認してください。

# ワークスペースの作成とブログの作成

ワークスペースとは、作業領域、オブジェクトを格納する「箱」のようなものです。ユーザーの権限をワークスペースに対して割り当てるにより、マルチテナントの運用が可能になります。

The screenshot shows the '新しいスペース' (New Space) creation form in PowerCMS X. The form fields include:

- 名前 \*: Blog
- 説明: PowerCMS Xで始めるはじめてのブログ
- サイト URL \*: http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/blog/
- 画像: A file selection input field with a placeholder 'ファイルを選択...' (Select file...).
- サイト・パス \*: /powercms/data/sites/01/files/powercmsx/site/blog
- アップロード・パス: assets/
- ファイルを出力: A checked checkbox.
- プレビューURL: An empty input field.
- 表示順: An empty input field.
- 言語: 日本語
- バーの色: #000000
- バーの文字色: #ffffff
- UUID: An empty input field.
- 作成: A button.
- 更新: A button.
- 保存: A blue button.
- 保存して複製: A grey button.

Copyright © 2018 Alfasado Inc. All rights reserved.

- ヘッダ > 歯車アイコン > スペースを選択します。「新しいスペース」をクリックします。
- 名前、説明、サイト URL、サイト・パス、アップロード・パスを入力して、ファイル出力にチェックを入れて「保存」ボタンをクリックします。

## ワークスペースへのビューの作成

ワークスペースへは、左上のシステム名の横の、箱型アイコンをクリックして表示されるドロップダウンから移動します。移動後、ビューの作成画面へ遷移します。

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:entrytitle	ファンクションタグ	escape(HTML エンティティを エスケープ)	記事のタイトル
mt:entrytext(mt:entrybody)	ファンクションタグ		記事の本文
mt:entryexcerpt	ファンクションタグ		記事の概要
mt:entrycategories	ブロックタグ		記事に紐付けられたカテゴリーをループ出力します。 カテゴリアーカイブの設定がある時、 mt:categorypermalink ファンクションタグで、カテゴリアーカイブの URL を出力できます。カテゴリーの各カラムの値は、カテゴリーモデルのカラム名を参照してください。
mt:entrytags	ブロックタグ		記事に紐付けられたタグをループ出力します。タグアーカイブの設定がある時、 mt:categorypermalink ファンクションタグで、タグアーカイブの URL を出力できます。タグの各カラムの値は、タグモデルのカラム名を参照してください。
mt:entrynext mt:entryprevious	ブロックタグ		それぞれ、前後の記事のコンテキストをセットします。published_on カラムが存在するモデル(有効期限指定)限定です。

PowerCMS X 記事 アセット ビュー タグ グループ バナー ⚙️ 🌐 🌐 🌐

Blog 記事 カテゴリ アセット ビュー タグ グループ ⚙️ 🌐 🌐 🌐

ビューの編集 新しいビュー 一覧に戻る 画面オプション

変更を保存しました。 ×

ブログ記事

1 <mt:setvar name="entry\_archive" value="1">  
2 <mt:for replace="http://junnoma.alfasado.net/",/\*><mt:for trim\_space="3">  
3 <mt:setvarblock name="page\_title"><mt:entrytitle> | <mt:workspacename></mt:setvarblock>  
4 <mt:entryexcerpt remove\_html="1" setvar="description">  
5 <mt:unless name="description">  
6 <mt:entrybody remove\_html="1" trim\_to="120+..." setvar="description">  
7 </mt:unless>  
8 <mt:entrykeywords setvar="keywords">  
9 <mt:unless name="keywords">  
10 <mt:setvarblock name="keywords"><mt:entrytags glue="" , "><mt:tagname></mt:entrytags></mt:setvarblock>  
11 </mt:unless>  
12 <mt:unless name="keywords">  
13 <mt:setvarblock name="keywords"><mt:entrycategories glue="" , "><mt:categorylabel></mt:entrycategories></mt:setvarblock>  
14 </mt:unless>  
15 <mt:entryogimageurl setvar="og\_image">  
16 <mt:include module="HTMLヘッダ">  
17 </mt:for>  
18 <!-- Page Content -->  
19 <div class="container">  
20 <div class="row">  
21 <!-- Post Content Column -->  
22 <div class="col-md-8">  
23 <!-- Main -->  
24 <main>  
25 <h1 class="mt-4"><mt:entrytitle></h1>  
26 <br>  
27 <!-- Date/Time -->

ステータス 有効

ベースネーム \* template

UUID f01ac9a0-be67-4a8f-9163-cdd9eae146b7

作成 システム管理者 2018-05-21 14:59:49  
更新 システム管理者 2018-05-21 14:59:49

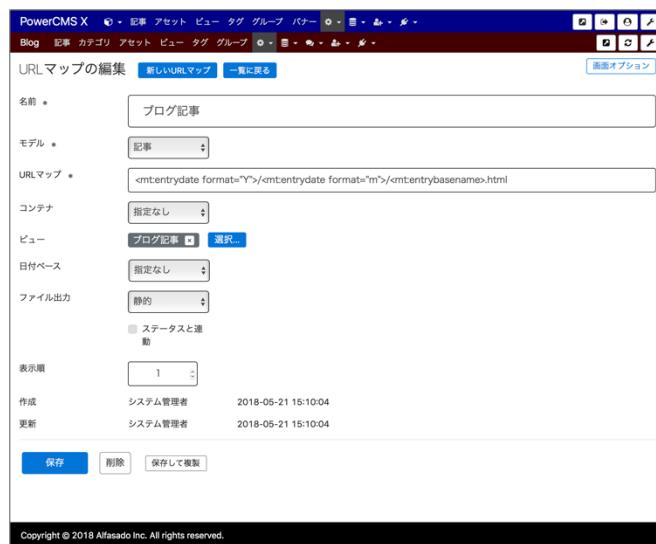
変更メモ

保存 削除 プレビュー 保存と再構築 リビジョンとして保存 保存して複製

Copyright © 2018 Alfasado Inc. All rights reserved.

# URL マップの作成

続いて、ビューに対応する URL マップを作成します。ビューに対応する URL マップを作成することで、はじめて静的・動的ページの出力が可能になります。



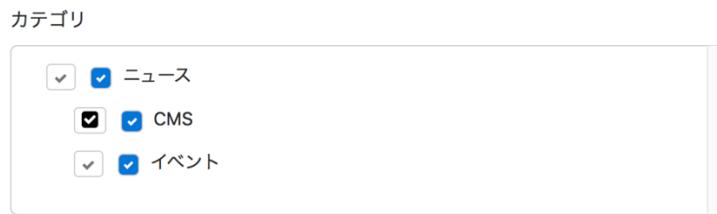
- 名前(ブログ記事)
- モデル(記事)
- URL マップ(<mt:entrydate format="Y"/>/<mt:entrydate format="m"/>/<mt:entrybasename>.html => サイト・パス/2018/05/記事のベースネーム.html)
- コンテナ(指定なし)
- ビュー(作成した「ブログ記事」を選択)
- ファイル出力(静的)
- ステータスと連動(指定なし)※ここにチェックがない場合でも、未公開のオブジェクトは公開されません。このチェックがない時、ログインしている権限のあるユーザーのみが見られる動的ページが登録されます)



URL マップとビューを正しく設定した状態で記事を作成、保存してページが正しく出力されることを確認してください。

# 記事の URL マップにカテゴリーのパスを使う

記事のページ出力先を日付によるパスでなく、カテゴリーの階層を繋いだパスに変更します(カテゴリーを作成していない場合は、作成してください)。



記事の URL マップのページを開き、以下のように変更して保存します。

- URL マップ(<mt:EntryCategories limit="1"><mt:CategoryPath />/</mt:EntryCategories><mt:EntryBasename>.html => サイト・パス/news/cms/記事のベースネーム.html)

この時、利用されるのは主カテゴリー(チェックボックスの左のチェックマークが選択状態になっているカテゴリー)となります。

## 再構築トリガーの設定

どのモデルのオブジェクトが更新された時にこの URL マップで指定したビューを再構築するかを指定できます。コンテナに指定してあるモデルを指定した時は、コンテナの指定が優先されます(コンテナに指定したオブジェクトが更新された時は常に再構築トリガーが引かれます)。トリガーのスコープをあわせて指定可能です(システムスコープ、スペースなど、再構築トリガーをいずれのスコープのオブジェクトが更新された時に限定することができます)。



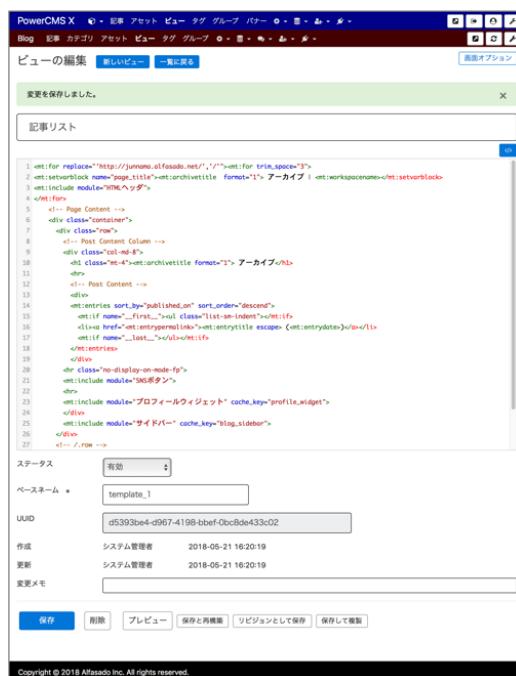
# コンテキスト別一覧ページの作成

カテゴリーーアーカイブを作成するために、カテゴリーをいくつか登録します。一覧ページ上の「階層の管理」で、階層を指定することができます。



ビュー「記事リスト」を作成します。

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:entries	ブロックタグ	limit、offset、sort_by、sort_order(ascend descend)、include_workspaces(またはworkspace_ids、カンマ区切りの数字もしくは"all")、exclude_workspaces(カンマ区切りの数字)	記事の一覧を出力します。アーカイブのコンテキストは自動的にセットされます。



カテゴリーアーカイブ用の URL マップを作成します。

URLマップの編集

名前 *	カテゴリ別記事リスト
モデル *	カテゴリ
URLマップ *	<mt:categorypath>/index.html
コンテナ	記事
ビュー	記事リスト <input type="button" value="選択..."/>
日付ベース	指定なし
ファイル出力	静的
<input type="checkbox"/> ステータスと連動	

- 名前(カテゴリ別記事リスト)
- モデル(カテゴリ)
- URL マップ(<mt:categorypath>/index.html)
- コンテナ(記事)
- ビュー(記事リスト)
- ファイル出力(静的)

※ 「コンテナ」とは、格納しているオブジェクトのことです。指定したオブジェクトのカテゴリーや日付などのコンテキストに沿ってリストが列出されることと、リストに含まれる対象のオブジェクトの更新時に再構築処理が走ります。

タグ名	種別	出力	備考
mt:categorypath	ファンクションタグ	カテゴリの階層をパスを 繋いで出力します。	モデルのオプション 「階層」を指定したモ デルの「名前」+path というタグが動的に登 録されます。

## 日付ベースの一覧ページの作成

年度別アーカイブ用の URL マップを作成します。

URLマップの編集

名前 *	年度別記事リスト
モデル *	ビュー
URLマップ *	<mt:archivedate format="Y"/>/index.html
コンテナ	記事
ビュー	記事リスト <input type="button" value="選択..."/>
日付ベース	年度別 <input type="button" value="▼"/> 年度の開始月 : 7
ファイル出力	静的 <input type="button" value="▼"/>
<input type="checkbox"/> ステータスと連動	

- 名前(年度別記事リスト)
- モデル(ビュー)
- URL マップ(<mt:archivedate format="Y"/>/index.html)
- コンテナ(記事)
- ビュー(記事リスト)
- 日付ベース(年度別)、年度の開始月(任意の月)
- ファイル出力(静的)

## 階層付きオブジェクトの出力テンプレート

カテゴリーなど、階層を持ったオブジェクトの階層を反映して出力するテンプレートを作成します。

```
<mt:setvartemplate name="sub_categories">
<mt:nestableobjects model="category" parent_id="$parent_id">
  <mt:categorylabel />
<mt:if name="has_children">
  <mt:categoryid setvar="_parent_id"/>
  <mt:var name="sub_categories" />
</mt:if>
</mt:nestableobjects>
</mt:setvartemplate>

<mt:categories parent_id="0" sort_by="order">
  <mt:categorylabel />
  <mt:categoryid setvar="_parent_id"/>
  <mt:var name="sub_categories" />
</mt:categories>
```

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:setvartemplate	ブロックタグ	name(変数名)	何も出力せず、テンプレートを変数にセットします。
mt:nestableobjects	ブロックタグ	model(モデル名)、parent_id(親オブジェクトの ID)	階層付きのオブジェクトを親 ID から読み込んでループ出力します。現在のループ中のオブジェクトに子オブジェクトが存在する時、変数 has_children に値がセットされます。
mt:categories	ブロックタグ	parent_id(0)を指定すると最上位のかてごりーのみ出力します。	カテゴリーのリスト
mt:categorylabel	ファンクションタグ		カテゴリーのラベル
mt:categoryid	ファンクションタグ		カテゴリーの ID

## 明示的なコンテキストのセット(例:記事をカテゴリーで絞り込む)

ブロックタグ内で明示的にコンテキストをセットすることができます。例えば、カテゴリーーアーカイブ以外で記事をカテゴリー や タグによる絞り込み、日付の範囲指定などが可能になります。

```
## カテゴリーが「Event」の記事の一覧

<mt:setcontext context="category" label="Event" container="entry">
  <mt:entries>
    <mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
      <li><a href=""><mt:entrytitle escape></a></li>
    <mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
  </mt:entries>
</mt:setcontext>
```

カテゴリーが「News」配下の「Event」の記事の一覧

```
<mt:setcontext context="category" path="News/Event" container="entry">
  <mt:entries>
    <mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
      <li><a href=""><mt:entrytitle escape></a></li>
    <mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
  </mt:entries>
</mt:setcontext>
```

タグ「News」が付けられた記事の一覧

```
<mt:setcontext context="tag" name="News" container="entry">
  <mt:entries>
    <mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
      <li><a href=""><mt:entrytitle escape></a></li>
    <mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
  </mt:entries>
</mt:setcontext>
```

タグ「News」が付けられた 2018 年 11 月の記事の一覧

```
<mt:setcontext context="tag" name="News" container="entry"
  timestamp="20181101000000" timestamp_end="20181130235959">
  <mt:entries>
    <mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
      <li><a href=""><mt:entrytitle escape></a></li>
    <mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
  </mt:entries>
</mt:setcontext>
```

## カレンダーの作成

```
<mt:calendar month="201810">
<mt:if name="__first__">
  <table class="tavle">
    <tr><mt:loop name="__week__"><th><mt:var name="__value__"
translate></th></mt:loop></tr>
</mt:if>
<mt:if name="__week_header__">
  <tr>
</mt:if>
<td>
  <mt:if name="__value__">
    <mt:if tag="entriescount">
      <a href="/daily/<mt:archivedate format="Ymd">.html">
</mt:if>
      <mt:var name="__value__">
        <mt:if tag="entriescount">
          </a>
        </mt:if>
        </mt:if>
      </td>
    <mt:if name="__week_footer__">
      </tr>
    </mt:if>
<mt:if name="__last__">
  </table>
</mt:if>
</mt:calendar>
```

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:calendar	ブロックタグ	month(月名または this(今月)、last(先月))	カレンダーを出力します。

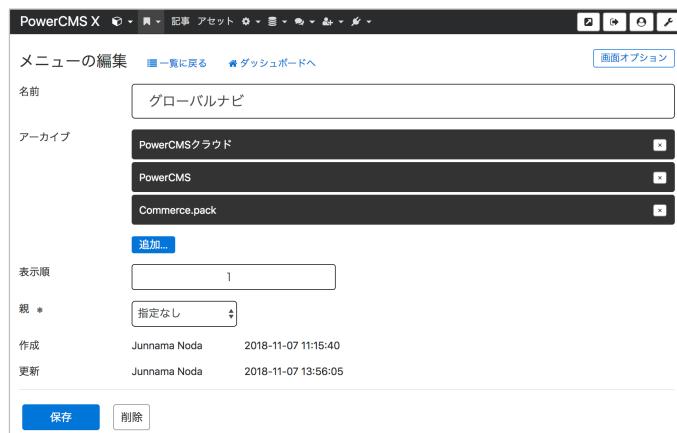
### ループの中でセットされる変数

- \_\_week\_\_: Sunday～Saturdayまでの配列
- \_\_year\_\_: 年
- \_\_month\_\_: 月(2桁)
- \_\_date\_\_(\_\_value\_\_): 日付(1桁または2桁)

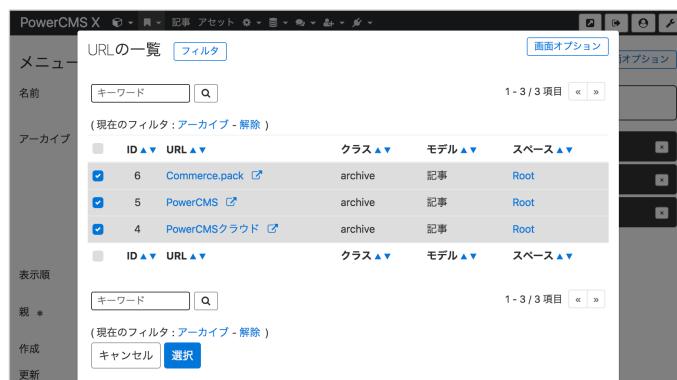
- `_week_number_(_key_)`: 0(日曜日)～6(土曜日)の数字
- `_day_of_week_`: Sunday～Saturdayまでの曜日名の文字列
- `_timestamp_`: YmdHis 形式のタイムスタンプ
- `_week_header_`: 一週間の最初(日曜日の時)
- `_week_footer_`: 一週間の終わり(土曜日の時)

# メニューの作成

「メニュー」モデルでは、アーカイブ(URL オブジェクト)をグループ化して、任意の表示順で表示できるナビゲーションメニューを作成可能です。メニューを作成するには、システムまたはスペースから、メニューを選択します。



「追加」ボタンをクリックして、アーカイブを選択し、表示したい順番をドラッグ&ドロップで指定します。



## メニューのテンプレート出力

```
<mt:menuitems name="グローバルナビ" global="1">
  <mt:if name="__first__"><ul class="navi"></mt:if>
    <li class="nav-item"><a href="
```

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:menuitems	ブロック タグ	global(システムスコープのメニュー)、workspace_id、name(名前)、basename(ベースネーム)またはid、column(指定のない場合、モデルの設定でプライマリ指定のあるカラムの値)が表示されます。	name または id タグ属性で表示したいメニューを指定します。ブロック内では指定したアーカイブの情報をコンテキストにセットしてループ出力します。

## ループの中でセットされる変数

- \_\_item\_url\_\_(\_\_key\_\_): メニューアイテムの URL
- \_\_item\_primary\_\_(\_\_value\_\_、 \_\_item\_label\_\_): メニューアイテムの名前(プライマリカラムの値)
- \_\_item\_{column 名}\_\_: column タグ属性指定がある時、該当のカラム値
- \_\_item\_model\_\_: メニューアイテムのモデル名
- \_\_item\_id\_\_: メニューアイテムの id

## ループ内のコンテキストのセット

```
<mt:menuitems name="グローバルナビ" global="1">
  <mt:setcontext context="$__item_model__" id="$__item_id__">
    // オブジェクトのコンテキスト
  </mt:setcontext>
</mt:menuitems>
```

mt:setcontext タグにタグ属性 context="\$\_\_item\_model\_\_" id="\$\_\_item\_id\_\_"を指定するとオブジェクトのコンテキストをセットできます。詳しくは「明示的なコンテキストのセット」を参照ください。

## メニューの階層化

mt:nestableobjects タグを使います。詳しくは「階層付きオブジェクトの出力テンプレート」を参照ください。

# リレーションの設定

同一もしくは異なるオブジェクトを関連付けるリレーションナルデータベースを管理画面から簡単に設定できます。

## 1対1の関連付け

記事にアセットを関連付ける設定の例です。カラムタイプ「数値」として、「詳細」ボタンで設定モーダルを開きます。一覧表示を「参照」、編集表示を「リレーション」とし、カラムを「ラベル」、ここではタイプを「ダイアログ」とします。



編集画面では、選択ボタンが表示されます。

ダイアログから関連付けるオブジェクトを選択します。

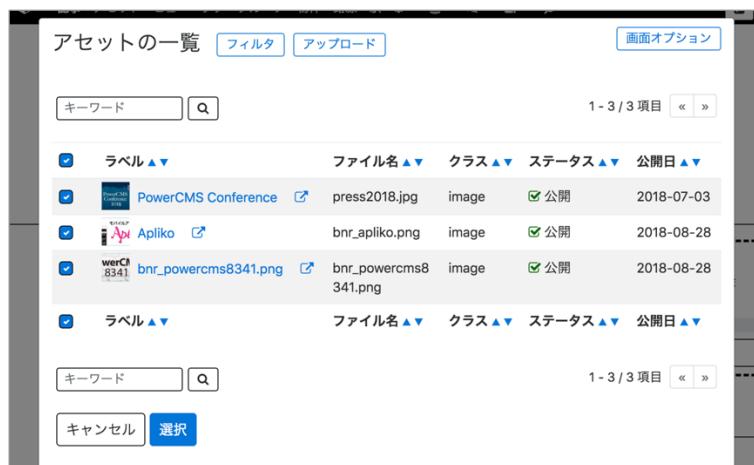
## 関連付けたオブジェクトのテンプレート出力

```
<mt:entryassetcontext>
  <mt:assetlabel escape=>
  <mt:assetfileurl />
  <mt:assetthumbnailurl name="image" height="70" square="1" />
</mt:entryassetcontext>
```

タグ名	種別	出力
mt:entryassetcontext	ブロックタグ	モデル名+ラベル名+Context がタグ名となります。ブロックタグ内では、アセットオブジェクトで定義したテンプレートタグが利用できます。
mt:entryassetidcontext	ブロックタグ	モデル名+カラム名+Context も同様の結果となります。カラム名/ラベル名の「_」(アンダースコア)が省略されることに注意してください。

## 1対多の関連付け

同じく記事にアセットを関連付ける設定の例です。今度はカラムタイプ「リレーション」として、「詳細」ボタンで設定モーダルを開きます。一覧表示を「参照」、編集表示を「リレーション」とし、カラムを「ラベル」、ここではタイプを「ダイアログ」とします。



1対1と違い、複数選択可能なチェックボックスでダイアログが開きます。選択した複数オブジェクトは、編集画面でドラッグ&ドロップによって順番を設定できます。

## 関連付けたオブジェクトのテンプレート出力

```
<mt:entryassets>
  <mt:assetlabel escape/>
  <mt:assetfileurl />
  <mt:assetthumbnailurl name="image" height="70" square="1" />
</mt:entryassets>
```

タグ名	種別	タグ属性	出力
mt:entryassets	ブロックタグ	sort_by、 sort_order	モデル名+カラム名/ラベル名 がタグ名となります。ブロック タグ内では、アセットオブ ジェクトで定義したテンプレ ートタグが利用できます。

※sort\_by(カラム名)、sort\_order(descend|ascend)を省略した時は、管理画面でドラッグ&ドロップで指定した順番に出力されます。

※標準モデル「記事」の mt:entrycategories、mt:entrytags はこの 1 対多の関連付けを利用して  
います。

# 権限の設定

各モデルに対して何が行えるかを定義した権限のセットが「ロール」です。「システム」または「ワークスペース」に対して、「ユーザー」に「ロール」を関連付けすることで権限の設定が可能です。ロールには「システムのロール」「ワークスペースのロール」の2種類があります。



モデルに対して設定できる権限は、モデルの設定によって異なります。

※「ユーザー」モデルに対する操作は指定できません。「ユーザー」モデルに対する操作ができるのは管理者権限を持ったユーザーのみです。

## モデルに対する各権限について

名称	表示される条件	説明
リスト	すべてのモデル	モデルに対する何らかの権限を持っている時、自分が操作可能なオブジェクトの一覧を表示することができます。 自分に操作権限のないオブジェクトは表示されません。 この権限がない時も、モデルの設定で「ダイアログ・ビュー」が設定されているモデルについては、関連付けの選択ダイアログを表示可能です。尚、添付ファイル付きのオブジェクトをダイアログや関連付け機能で表示したとき、サムネイルを見ることができません。
すべてのリスト	ステータスの設定があるモデルのみ	モデルに対する何らかの権限を持っている時、自分が操作可能でないオブジェクトを含む一覧を表示することができます。

名称	表示される条件	説明
		権限のないオブジェクトに対する操作はできません(編集画面へのリンクや、一括アクション用のチェックボックスが表示されません。複製権限を持つ場合、権限のないオブジェクトの複製は可能です。
作成	メニュー「読み取り専用」以外のモデル	新規オブジェクトの作成ができます。
自分のオブジェクト	ユーザーをアサインする(user_id カラムが存在する)、が指定されているモデル	自分が担当者のオブジェクトに対する操作ができます。
すべてのオブジェクト	ユーザーをアサインする(user_id カラムが存在する)、が指定されているモデル	自分が担当でないオブジェクトを含むすべてのオブジェクトに対する操作ができます。 但し、ステータスの指定のあるモデルについては、自分に権限を与えられたステータス(以下)のオブジェクトに対する操作しかできません。
レビュー	ステータス指定のあるモデルで、有効期限指定が設定されているモデル	下書きのオブジェクトのステータスをレビューにする、またはステータスが下書きのオブジェクトと、レビューのオブジェクトに対する操作ができます。 但し、「すべてのオブジェクト」に対する権限がない場合、自分の担当オブジェクトに対する操作に制限されます。
リビジョン管理	リビジョン指定のあるモデルのみ	リビジョンに対する操作ができます。
複製	複製指定のあるモデルのみ	一覧画面、または編集画面からオブジェクトの複製ができます。
有効化	ステータス指定のあるモデルのみ	「すべてのオブジェクト」に対する権限がある場合、すべてのオブジェクトに対する操作ができます。 ステータスを「有効」または、有効期限指定が設定されているモデルについてはステータスを「承認待ち」「公開予約」「公開」「公開終了」に指定できます。
削除	すべてのモデル	操作権限のあるオブジェクトを削除できます。
階層	階層指定のあるモデルのみ	階層の管理ができます。

## システムまたはスペース全体への各権限について

名称	説明
	システム/ワークスペース全体を再構築できます。
再構築	この権限がなくても、オブジェクトを有効化・公開すると、アーカイブ設定のある場合、ページやファイルは出力されます。
インポート	インポート・エクスポートの指定のあるモデルを CSV エクスポート・インポートできます。
プラグイン管理	プラグインの有効化/無効化、プラグイン設定の編集ができます。

## ユーザーとロール、ワークスペースまたはシステムを関連付ける

「システム」または「ワークスペース」に移動して、権限を作成します。ユーザーとロールを関連付けます。1つの権限に対してロールは複数指定可能です。



## ワークフロー

オブジェクトの作成、レビューを経て、公開するなどのワークフローを利用できます。ワークフローが利用できるのは、「ステータス」「ユーザーをアサインする」が指定されたモデルとなります。

ワークフローにおける権限グループは以下の3種類です。

権限グループ名	説明
作成者	下書きのオブジェクトに対する権限のみを持ち、レビュー、有効化(公開)権限を持たないユーザーを指定します。
レビュー	オブジェクトに対する、レビュー権限を持ち、有効化(公開)権限を持たないユーザーを指定します。
公開者	オブジェクトに対する、有効化(公開)権限を持つユーザーを指定します。

※複数のユーザーを選択した場合、ドラッグ&ドロップでワークフローの順番を指定できます。

「ステータス」「ユーザーをアサインする」に指定のあるモデルのステータスは、以下の5種類です。

ステータス名	実際の数値	説明
下書き	0	作成者、レビュー、公開者がアクセスできる「下書き」。
レビュー	1	レビュー、公開者がアクセスできる「レビュー」。
承認待ち	2	公開者がアクセスできる「承認待ち」。
公開予約	3	公開者がアクセスできる「承認待ち」。定期実行タスクによって、公開日を過ぎたものは、バッチにより公開されます。
公開	4	公開者がアクセスでき、ページが出力される「公開」。
公開終了	5	有効期限を指定した時、公開日を過ぎたものがバッチにより公開終了されたもの。公開者のみアクセスでき、手動で設定することもできます。

PowerCMS X ニュースレターアセット ビュー タグ グループ 物件 路線 駅

新着情報 カテゴリ アセット ビュー タグ グループ

ワークフローの編集 一覧に戻る ダッシュボードへ

画面オプション

モデル \* 記事

作成者 alfasado\_test

追加...

レビュアー 相原

追加...

公開者 Junnama Noda

藤本

管理者2

追加...

承認タイプ \* 直列 (checked) 並列

差し戻しタイプ \* 並列 (checked)

ユーザー変更時に通知する

## その他の設定

## 説明

### 承認タイプ

「直列」「並列」を選択できます。「直列」を指定した場合、自分が承認依頼できるユーザーは、次のユーザー1名のみです。

「並列」を指定した場合、ワークフローに属するすべてのユーザーの、どのユーザーにも承認依頼できます。

### 差し戻しタイプ

「直列」「並列」を選択できます。「直列」を指定した場合、自分が差し戻しできるユーザーは、次のユーザー1名のみです。

「並列」を指定した場合、ワークフローに属するすべてのユーザーの、どのユーザーにも差し戻しできます。

### 公開者

オブジェクトに対する、有効化(公開)権限を持つユーザーを指定します。

公開日	2018/08/24	13:33:01	指定なし 公開者
ワークフロー	<input type="radio"/> 指定なし <input type="radio"/> 差し戻し <input checked="" type="radio"/> 承認依頼 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者2		
ユーザー	Junnama Noda ➔ 管理者2		
通知メッセージ			

ワークフローを設定したモデルのオブジェクトの編集画面に、「ワークフロー」欄が表示され、ラジオボタンで「差し戻し」「承認依頼」を指定できます。各ユーザーに対して「すべてのオブジェクト」権限を与えるに「自分のオブジェクト」のみ権限を付与し、ワークフローで「直列」を指定すると、必ず決まったルートでの承認ワークフローを実現できます。

## 承認依頼・差し戻し時の通知メール

「ユーザー変更時にメールする」チェックのある時、以下のタイミングでメールが送信されます。

メール種別	説明	ビュー
新しくアサインされたユーザーへの通知	承認依頼または差し戻しの両方で、新しく担当者にアサインされたユーザーへの通知メールです。	ベースネーム「notify_new_user」、メール種別「メール」のビュー(存在しない場合 powercmsx tmpl/email/notify_new_user.tmpl が利用されます)※1
自分の担当オブジェクトが他のユーザーへアサインされた時の通知	自分の担当のオブジェクトが他のユーザーによって別のユーザーにアサインされた時、担当だったユーザーに送信されるメール	ベースネーム「notify_old_user」、メール種別「メール」のビュー(存在しない場合 powercmsx tmpl/email/notify_old_user.tmpl が利用されます)
承認が完了した時の承認依頼元のユーザーへの通知	自分が承認依頼したオブジェクトが、公開もしくは公開予約された(承認された)時に送信されるメールです。	ベースネーム「notify_previous_user」、メール種別「メール」のビュー(存在しない場合、powercmsx tmpl/email/notify_previous_user.tmpl が利用されます)
一覧画面でステータス変更に伴い担当ユーザーが変更された時の通知	一覧画面からまとめてステータスを変更した時に、元のオブジェクトの担当ユーザーが変更後のステータスへのアクセス件を持たない場合に元の担当者へ送信されるメール※2	ベースネーム「batch_status_change」、メール種別「メール」のビュー(存在しない場合、powercmsx tmpl/email/batch_status_change.tmpl が利用されます)

※1 ワークスペースに該当のビューがない場合、システムに該当するビューを探しにいき、それでもない場合は、デフォルトのテンプレートが利用されます。

※2 レビュアーが担当しているオブジェクトが、公開者によってステータス公開や公開予約に変更された場合など。

# 管理画面のカスタマイズ

モデルの編集画面で一覧表示、編集表示のカラムタイプを指定することができますが、特定のカラムについて画面上の表示を変更したり、複数のカラムを一つにまとめたりといったカスタマイズをしたい時のカスタマイズ方法です。

## 管理画面で利用されているライブラリ・コンポーネント

- Bootstrap v4.0.0-alpha.6
- jQuery JavaScript Library v3.2.1
- Font Awesome 4.7.0
- Codemirror 5.28.0
- TinyMCE 4.5.3

## カラム毎のテンプレートの配置

編集表示テンプレートは「powercmsx/tmpl/edit.tpl」、一覧画面テンプレートは「powercmsx/tmpl/list.tpl」ですが、以下の位置にテンプレートファイルを設置することにより、そのカラムにおいては設置したカスタム・テンプレートが利用されます。

## 代替テンプレートの設置場所

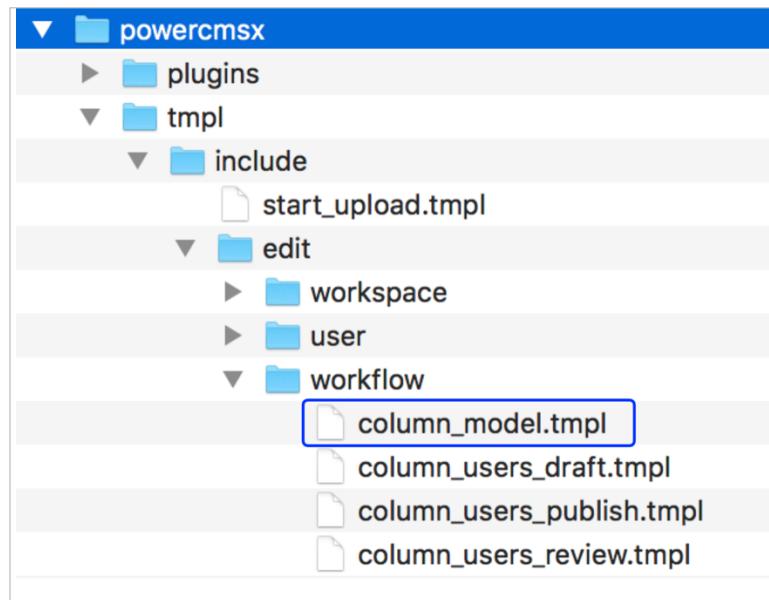
powercmsx/tmpl 配下のテンプレートを直接編集したり、新規にファイルを設置した場合、バージョンアップの際などに上書きされてしまう可能性があるため、powercmsx/alt-tmpl 配下に同じルールでファイルを設置するようにします。

また、プラグイン(プラグインについては後述)を作成して配下の alt-tmpl にファイルを設置することもできます。同じ配置に複数のファイルが存在する場合、サーバー上のファイル・パスが長いものが優先して利用されます。

## 編集画面テンプレートごとカスタマイズする

編集画面はすべてのモデルに共通で、powercmsx/tmpl/edit.tpl が利用されますが、powercmsx/(alt-)tmpl/edit\_[モデル名].tpl というテンプレートを設置すると、個別のカラムごとではなく、丸ごと編集画面テンプレートの代替テンプレートとなります。

## 作成・編集画面のカラム



モデル「ワークフロー」の「model」カラムのテンプレート



変数名	説明
__col_name__	HTML エンコード済みのカラム名。
__col_value__	HTML エンコード済みの値。リレーションの時は、値は空となります(※)。
__object_label__	HTML エンコード済み・翻訳済みのカラムのラベル。
_hint	アイコン、表示用の HTML タグを含むヒント。
object_カラム名	未エスケープのオブジェクトの値。カスタムテンプレートの該当するカラム以外の他のカラムの値を取得する時に利用できます。

フォームのコントロールの name 属性値に \_\_col\_name\_\_( name) を指定することで、保存されるようになります。

## ※リレーションの時の値の取得方法

```
<mt:loop name="object_[カラム名]">
  <mt:getobjectname id="$__value__" type="$edit" escape>
</mt:loop>
```

テンプレート変数 \_\_value\_\_ に関連オブジェクトの ID が格納されます。

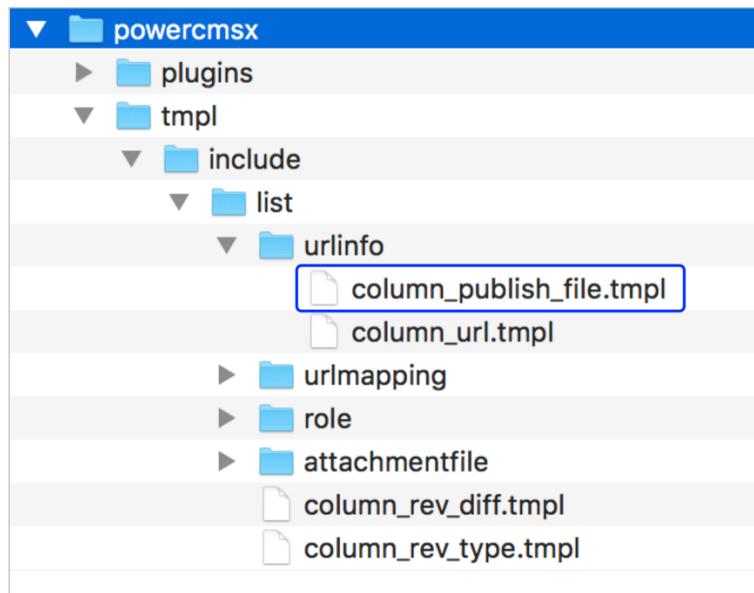
各カラムとは別に、作成・編集画面の見出し下、フォームの先頭部分、フォームの閉じタグの直前にテンプレートを挿入することができます。

場所	パス
見出し下	tmpl/include/edit/モデル名/screen_header.tmpl
フォームの先頭	tmpl/include/edit/モデル名/form_header.tmpl
フォームの末尾(閉じタグの直前)	tmpl/include/edit/モデル名/form_footer.tmpl

### モデルの作成・編集画面の form\_footer.tmpl の例

The screenshot shows the PowerCMS X interface for editing a model named 'permission'. The top section displays basic model details: Name (permission), Label (Permission), Plural Label (Permissions), Version (1.0), and Primary Key (selected). The 'Options' section includes checkboxes for system integration (menu type: User and Permission), automatic creation, tags, templates, base names, user assignment, revision tracking, search, and other advanced options like UUID, import/export, and log. The bottom section shows the 'Columns' tab where four columns are defined: id (ID, Value type, NOT NULL, Unique, Editable), user\_id (User, Value type, NOT NULL, Unique, Editable), roles (Roles, Relation type, NOT NULL, Unique, Editable), and workspace\_id (WorkSpace, Value type, NOT NULL, Unique, Editable). At the bottom, there are buttons for Save, Delete, and Export.

## 一覧画面のカラム



モデル「URL」の「publish\_file」カラムのテンプレート

The screenshot shows the PowerCMS X interface with the title bar 'PowerCMS X'. Below it is a search bar with fields for 'アクション...' and 'Go', and a 'キーワード' input field with a magnifying glass icon. The main area is titled 'URLの一覧' and shows a table with three rows of data. The columns are labeled 'ID', 'URL', 'クラス', 'モデル', 'パブリッシュ', and 'ファイル出力'. The first row has ID 1756, URL 'http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/forms/form.html', class 'archive', model 'フォーム', publish status checked, and file output 'ダイナミック'. The second row has ID 1773, URL 'http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/banners/powercms\_1\_4.gif', class 'file', model '物件', publish status checked, and file output 'ダイナミック'. The third row has ID 1774, URL 'http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/banners', class 'file', model '物件', publish status checked, and file output 'ダイナミック'. A blue box highlights the 'ファイル出力' column.

### 変数名

### 説明

__col_name__	HTML エンコード済みのカラム名。
__col_value__	HTML エンコード済みの値(未エスケープの値は「カラム名」で取得できます)。配列の時は HTML エンコード済みの値の配列。
id	オブジェクトの id の値。
permalink	オブジェクトのアーカイブ設定があり、パーマリンクが設定されている時、URL を取得できます。

各カラムとは別に、一覧画面の見出し下にテンプレートを挿入することができます。

### 場所

### パス

見出し下	tmpl/include/list/モデル名/screen_header.tmpl
------	-------------------------------------------

# インポートとエクスポート

モデルのオプション「インポート & エクスポート」を指定したオブジェクトは、CSV ファイル形式でのインポートとエクスポートができます。管理者権限を持ったユーザーでない場合、システムまたはワークスペースに対して「インポート & エクスポート」が必要です。

The screenshot shows the 'Model Edit' screen in PowerCMS X. In the 'Options' section, the 'Import & Export' checkbox is checked, highlighted with a blue border.

名前 *	station
ラベル	Station
複数形	Stations
バージョン	
プライマリ	名前
オプション	<input checked="" type="checkbox"/> システムに表示 メニュータイプ : パネル <input type="checkbox"/> 自動監査 <input type="checkbox"/> タグ付け <input type="checkbox"/> テンプレート・タグ <input type="checkbox"/> ベースネーム <input type="checkbox"/> ユーザーを <input type="checkbox"/> 階層 <input type="checkbox"/> ステータス対応 <input type="checkbox"/> 有効期限対応 <input type="checkbox"/> UUID <input checked="" type="checkbox"/> インポート & エクスポート <input type="checkbox"/> スペースの子テーブル

## エクスポート

エクスポートは、オブジェクトの一覧画面から行います。エクスポート対象のオブジェクトをチェックボックスで選択して「アクション」ドロップダウンから「CSV エクスポート」を選択、文字コードと IDあり、なしを選択して「Go」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Line List' screen in PowerCMS X. Two items are selected, and the 'Actions' dropdown menu is open, showing 'Shift\_JIS(IDなし)' selected. The 'Shift\_JIS(IDなし)' option is highlighted with a blue border.

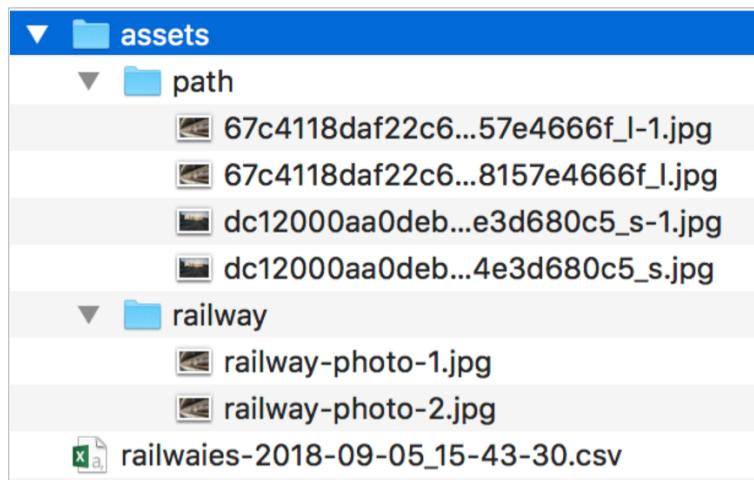
ID	名前
1	阪急京都線
2	阪急電鉄神戸線

エクスポート対象となるのは、「uuid, rev\_type, rev\_object\_id, rev\_changed, rev\_diff', 'created\_on, modified\_on, created\_by, modified\_by」を除くカラムの値です。

リレーションの設定がある場合、1対1の場合はオブジェクトのid(数値)、1対多のリレーションの場合は、関連オブジェクトのプライマリカラムの値がカンマ区切りで格納されます。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	railway_name	railway_photo	railway_parent_id	railway_assets						
2	阪急京都線	%r/assets/railway/railway-photo-1.jpg		2	%s/%r/assets/path/67c4118daf22c69b7940408157e4666f_l.jpg,%s/%r/assets/path/dc12000aa0debb9a7dd56174e3d680c5_s.jpg					
3	阪急電鉄神戸線	%r/assets/railway/railway-photo-2.jpg		0	%s/%r/assets/path/67c4118daf22c69b7940408157e4666f_l-1.jpg,%s/%r/assets/path/dc12000aa0debb9a7dd56174e3d680c5_s-1.jpg					

オブジェクトに「バイナリ/ファイル」型のカラムがある場合、もしくは関連するオブジェクトに「バイナリ/ファイル」型のカラムがある場合は、CSVと同時に添付されたファイルをまとめてZIPファイルに圧縮してエクスポートします。



## インポート

エクスポートしたCSVがそのままインポートファイル形式となります。1行目にカラム名、2行目以下に1行1オブジェクトの内容を入力します。添付ファイル付きでエクスポートされるモデルについては、同じファイル構成で作成したZIPファイルを添付してインポートすると関連オブジェクトを同時に生成することができます。



※ID付きエクスポートしたファイルをインポートに利用すると、上書きインポートを行います。権限のないオブジェクトは上書きできません。上書きインポートする場合や大量のオブジェクトをインポートする場合は、念のためにデータベースのバックアップをとるなどしてください。

## フォーム

「フォーム」モデルは、フォームの作成、投稿(コンタクト)の受付、メールによる通知などを管理します。ヘッダメニューの「コミュニケーション」から各オブジェクトにアクセスできます。

モデル	説明
フォーム	「設問」をグループ化したものがフォームになります。またフォームの各種設定を管理します。
設問	フォームの各設問を作成・管理します。
設問タイプ	「設問」の雛形を管理します。システムでのみ管理できます。ワークスペース内では作成できません。
コンタクト	フォームから投稿されたデータを管理します。

## 設問を作成する

- システムまたはワークスペースで、「コミュニケーション」メニューから「設問」を選択し、新規作成をクリックします。
- 「ラベル」を入力し、必要に応じて「説明」を入力します。「ラベル」は表示されるフォームの入力コントロールのラベルとなります。
- 「設問タイプ」を選択し、適用をクリックします。
- 各項目を設定します。

設定項目名	説明
ラベル	フォームの設問名(ラベル)を入力します。
説明	一覧画面での識別用の設問の説明を入力します。
プライマリ	設問のうち、チェックのある最初のプライマリ指定の設問への回答が、コンタクトの一覧画面・編集画面の「プライマリ」欄に格納されます。
必須項目	設問を必須項目にする場合、チェックします。
集計する	投稿された「コンタクト」の一覧画面から集計する際に集計対象とする項目の場合チェックします。
メールには情報 を含めない	管理者への通知メールに含めたくない場合(個人情報など)、チェックします。
ヒント	入力コントロールの下に表示されます。
バリデーション	入力チェックを行う場合、バリデーションタイプを選択します。
正規化	normalizer_normalize 関数を使って値を正規化します(全角英数字を半角に揃える等)。正規化方式は「Normalizer::NFKD」です。 <a href="http://php.net/manual/ja/normalizer.normalize.php">http://php.net/manual/ja/normalizer.normalize.php</a>
フォーマット	Sprintf 関数を使って文字列をフォーマットする時に指定します。 複数の値を受け取る設問の時は、カンマ区切りで指定します(日付の時、「%04d,%02d,%02d」など)。 <a href="http://php.net/manual/ja/function.sprintf.php">http://php.net/manual/ja/function.sprintf.php</a>
テキスト長	最大入力可能な文字数を指定します。
マルチバイト	入力文字数をマルチバイト文字でカウントします。

設定項目名	説明
最大サイズ	「添付ファイル」の時、ファイルの最大サイズを指定します。
コネクタ	複数の値を受け取る時、入力値で値を連結します(「,」など)。
複数の値	複数の値を受け取る時、チェックします。
オプション	ラジオボタンやチェックボックス、ドロップダウンの選択肢をカンマ区切りで指定します。設問タイプが「添付ファイル」の時は、受け付けるファイルの拡張子を指定します。
値	「オプション」に指定した値を別の値を受け取る時、「オプション」に対応する値をカンマ区切りで指定します。
初期値	初期値を指定します。複数の値を選択済みにする時は、カンマ区切りで指定します。
ベースネーム	システム、ワークスペース内でユニークな英数文字列を指定します。

## フォームを作成する

The screenshot shows the 'Form Editor' window in PowerCMS X. At the top, there's a toolbar with icons for file operations like New, Open, Save, and Print. Below the toolbar, the title bar says 'PowerCMS X' and 'フォームの編集'. The main area is divided into sections:

- 名前:** A text input field containing 'フォーム'.
- URL:** A text input field containing 'http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/forms/form.html'.
- 設問 (Questions):** A list of questions with dropdown menus next to them. The questions are:
  - お名前
  - 会社名
  - メールアドレス
  - お問い合わせ内容
  - 利用したことのある製品
  - 生年月日
  - PowerCMSを知ったきっかけ
  - 電話番号
  - 興味のある製品
  - プライバシー
  - 添付ファイル
- 追加... (Add...):** A button to add more questions.
- スパム対策 (Spam Protection):** Options for requiring a token and setting its expiration time (1400 seconds).
- リダイレクト先 (Redirect URL):** A text input field containing 'http://junnama-alfasado-net.powercms.hosting/powercmsx/site/form'.
- ステータス (Status):** A dropdown menu set to '公開' (Public). There's also a checkbox for '公開終了日を指定' (Specify end date) which is unchecked.
- 公開日 (Publish Date):** A date input field showing '2018-07-20' and a time input field showing '12:48:33'.
- ベースネーム (Base Name):** A text input field containing 'form'.
- 通知メール送信 (Email Notification):**
  - メールを送信する (Send email): A text input field below it contains 'junnama@alfasado.jp'.
  - 送信者にメールを送る (Send from sender): A dropdown menu below it is set to '指定なし' (None).
  - 管理者に通知メールを送る (Send to administrator): A dropdown menu below it is set to '指定なし' (None).

- 「コミュニケーション」メニューから「フォーム」を選択し、一覧画面から「新しいフォーム」を選択します。
- 設問の「追加...」ボタンをクリックし、作成済みの「設問」を選択します。
- ドラッグ&ドロップで、設問の表示順を設定します。

- フォームのオプションを設定します。

設定項目名	説明
スパム対策	「トークンを有効にする」をチェックし、「トークン有効期限」を設定すると、投稿にトークンを必要とするようになります。「添付ファイル」タイプの設問を含む場合、この項目を必ず指定してください。
通知メールを送信	投稿者への Thanks メール、管理者への通知メールを送信する場合、チェックします。
リダイレクト先	投稿を受け付けた後に遷移する Thanks ページの URL を指定します。以下のフォームのビューでは、Thanks ページの URL に「?submit=1」を付与して、その値で表示を分岐しています。 <mt:if name="request.submit"><p>お問い合わせありがとうございました。メールにてご連絡いたしますのでしばらくお待ち下さい。</p></mt:if>
メールの From	Thanks メール、通知メールの From アドレスを指定します。省略した場合、システムのメールアドレスが From アドレスとなります。
送信者にメールを送る/ビュー	Thanks メールを送信する場合、チェックし、メールテンプレートを選択します。ビューの選択ドロップダウンには、クラス「メール」を指定したビューが表示されます。ビューを選択した時、ビューの「件名」フィールドの値がメールの件名となります(件名フィールドでは、テンプレート・タグが利用可能です)。 ビューの指定がない場合、tmpl/email/form_thanks tmpl が利用されます。
管理者に通知メールを送る/ビュー	管理者に通知メールを送信する場合、チェックし、メールテンプレートを選択します。ビューの選択ドロップダウンには、クラス「メール」を指定したビューが表示されます。ビューを選択した時、ビューの「件名」フィールドの値がメールの件名となります(件名フィールドでは、テンプレート・タグが利用可能です)。 ビューの指定がない場合、tmpl/email/form_notify tmpl が利用されます。

## フォームのビューの例(名前「フォーム」)

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
  <head>
    <meta charset="utf-8">
    <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1, shrink-to-fit=yes">
    <title><mt:formname escape /> | <mt:var name="appname" escape /></title>
    <link rel="stylesheet" href="

```

```

<script src=<mt:var name="theme_static">website/js/jquery.min.js"></script>
<script src=<mt:var name="theme_static">website/js/popper.min.js"></script>
<script src=<mt:var name="theme_static">website/js/bootstrap.min.js"></script>
<script src=<mt:var name="theme_static">website/js/custom.js"></script>
</head>

<body>
<div class="container-fluid">
<h1><span class="title"><mt:formname escape /></span></h1>
<mt:if name="request.__mode" eq="submit">
<mt:if name="error">
<p class="text-center text-danger"><mt:trans phrase="An error occurred." language="$language"></p>
<mt:loop name="errors">
<mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
<li><mt:var name="__value__"></li>
<mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
</mt:loop>
<mt:else>
<p class="text-center"><mt:trans phrase="Thank you for your inquiry." language="$language"></p>
</mt:if>
<mt:elseif name="request.submit" eq="1">
<p class="text-center"><mt:trans phrase="Thank you for your inquiry." language="$language"></p>
<mt:else>
<mt:if name="error">
<p class="text-center"><mt:trans phrase="Please check your entries." language="$language"></p>
<mt:loop name="errors">
<mt:if name="__first__"><ul></mt:if>
<li><mt:var name="__value__"></li>
<mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
</mt:loop>
<mt:else>
<mt:if name="confirm_ok">
<p class="text-center"><mt:trans phrase="Confirm the following and click Submit button." language="$language"></p>
<mt:else>
<p class="text-center"><mt:trans phrase="Please complete the form below and click Confirm button." language="$language"></p>
</mt:if>
</mt:if>

```

```

<form action="" method="POST" enctype="multipart/form-data">

    <input type="hidden" name="form_id" value="

```

## URL マップの作成

設定項目名	説明・値
名前	任意の名前を指定します。例: フォーム
モデル	「フォーム」
URL マップ	公開する URL を指定します。例: forms/<mt:formbasename>.html
コンテナ	指定なし
ビュー	作成したフォームのビューを指定します。例「フォーム」
日付ベース	指定なし
ファイル出力	ダイナミック(※同一 URL でフォームの投稿を受け取る時、ダイナミックを指定してください)

フォームを再構築して、投稿できることを確認してください。

## 投稿されたデータ「コンタクト」を見る

「コミュニケーション」メニューから「コンタクト」を選択します。

## コンタクト一覧画面での管理

- コンタクトを選択して、CSV でダウンロードが可能です。添付ファイル付き投稿の添付ファイルがある場合、あわせてダウンロードされます。
- コンタクトを選択して、ステータスの変更ができます。
- コンタクトを選択して、タグを追加・削除することができます。
- コンタクトの集計ができます。

## コンタクトの集計機能

- 一覧画面で対象のコンタクトを絞り込んだ後、「アクション...」から「集計する」を選択します。
- 集計対象となるのは、「設問」の設定で「集計する」にチェックを入れた質問です。
- 異なるフォームでも、設問のラベルが同一のものは、集計されます。フォームごとの集計を行いたい場合は、フィルタ機能でフォームへのコンタクトを絞り込み表示してから集計機能をご利用ください。

The screenshot shows the PowerCMS X interface with the title 'Contact List'. A context menu is open over a contact entry, with the option 'Count' highlighted. The menu also includes other actions like 'Status Change', 'Add Tag', 'Delete Tag', 'CSV Export', and 'Count'.

The screenshot shows the 'Count Result' page. It displays three sections: 'Contact Counted' (41 items), 'PowerCMS Knownきっかけ' (with a pie chart and a table), and 'Used Products' (with a pie chart and a table). The 'Used Products' section also includes a 'Popular Products' section.

回答	回答数	比率
紹介	34	82.9%
(回答なし)	4	9.8%
ウェブサイト	2	4.9%
セミナー	1	2.4%
合計	41	100%

回答	回答数	比率
PowerCMS X	38	92.7%
(回答なし)	1	2.4%
PowerCMS 8341	1	2.4%
PowerCMS	1	2.4%
合計	41	100%

回答	回答数	比率
PowerCMS	40	47.6%
PowerCMS X	39	46.4%
Commerce.pack	3	3.6%

## コンタクト詳細画面での管理

件名  
アルファサード株式会社

メールアドレス  
junnama@alfasado.jp

データ

設問	値
お名前	野田純生
会社名	アルファサード株式会社
メールアドレス	junnama@alfasado.jp
お問い合わせ内容	PowerCMS X のデモをお願いします。来週で候補日を2、3お願いします。
PowerCMSを知ったきっかけ	ウェブサイト
電話番号	080-3605-8722
プライバシー	1
添付ファイル	easy-japanese-2018-06-28_17-17-14.docx

添付ファイル  
easy-japanese-2018-06-28\_17-17-14.docx

タグ  
選択されていません

メモ

ステータス

- 内容の確認、ステータスの変更、メモの追加、タグの追加、添付ファイルのダウンロードが可能です。

# サイト内検索機能と動的ページ分割

ダイナミック・パブリッシングを利用して、データベース内をキーワード等で検索するテンプレートを作成します。

- デバッグ・モードを有効にする
- オブジェクトを一覧表示するテンプレートを作成し、URL マップを「ファイル出力」を「ダイナミック」にして作成する
- オブジェクトの一覧画面で、フィルタを作成して実行する
- ポストされたパラメタのうち、\_filter で始まるものを繋げる
- 作成したページにパラメタを付けてアクセスする
- ページ分割とページ送りを実装する

The screenshot shows a list of articles in PowerCMS X. A success message at the top says "記事を削除しました。". Below it is a search bar and a table with columns: ID, タイトル (Title), ステータス (Status), 公開日 (Published Date), 添付ファイル (Attached File), and ユーザー (User). Two articles are listed:

ID	タイトル	ステータス	公開日	添付ファイル	ユーザー
11934	謹賀新年 - 2018年は志高く、飛躍の2年に。	公開	2018-01-01		管理者2
11933	Movable Typeの権限管理とバーミッションチェックについてもう一度まとめておく。	下書き	2017-12-25		alfasado_test

Request completed in 0.61 seconds.  
Query Parameters  
• \_mode=view

## デバッグ・モードを有効にする

config.json の config\_settings 内に “debug” : true を指定すると、デバッグ・モードになり、画面の下部にクエリパラメタとエラー(Warning)、実行された SQL 文が表示されるようになります。

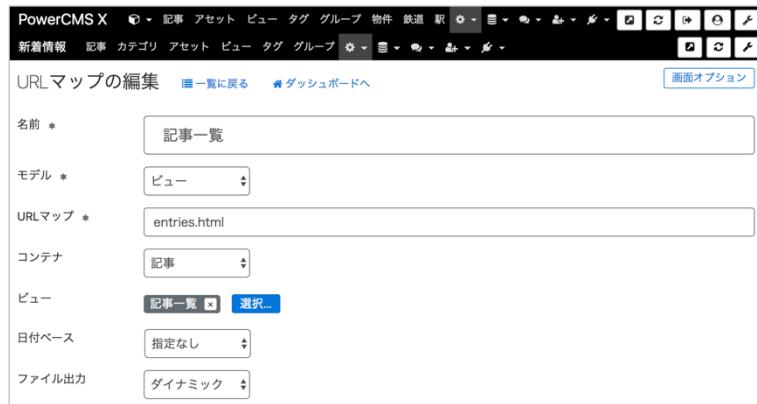
```
{  
    "label"      : "Prototype",  
    "component"  : "Core",  
    "author"     : "Alfasado Inc.",  
    "author_link": "https://alfasado.net/",  
    "config_settings": {  
        "debug" : true  
    }  
}
```

## 記事を一覧表示するビューを作成し、URL マップを作成する

ビューを作成します。検索対象は記事に限らずすべてのモデルを対象にできます。

```
<mtEntries sort_by="published_on" sort_order="descend">
  <mt:if name="__first__">
    <mt:setvar name="has_entry" value="1">
    <mt:var name="object_count"> 件がマッチしました。
  <ul>
  </mt:if>
  <li><a href=""><mt:entryTitle escape></a></li>
  <mt:if name="__last__">
  </ul>
  </mt:if>
</mtEntries>
<mt:unless name="has_entry">
  記事はありません。
</mt:unless>
```

続いて、対応する URL マップを作成します。「モデル」には「ビュー」、「コンテナ」には「記事」を指定し、「ファイル出力」は「ダイナミック」を指定します。



再構築をして、記事の一覧が表示されることを確認してください。

# 一覧画面でフィルタを作成して実行する

記事一覧画面で、フィルタを作成して実行します。



## パラメタを繋げる

デバッグメッセージの Query Parameters を確認します。このうち、\_filter\_id 以外の「\_filter」から始まるパラメタをビューに渡すことで、検索を実現できます。

```
_mode=view
_model=entry
_type=list
_filter=entry
_filter_id=
_save_filter_name=
_detach_filter=
magic_token=7a6d5ecbfe8cc19f671cb9aac83a854c
_system_filters_option=
workspace_id=1
select_system_filters=
select-user_filters=add_new_filter
filters-selector=title
_filter_value_title[]='Power'
_filter_value_title[]='CMS'
_filter_cond_title[]='ct'
_filter_cond_title[]='ct'
```

作成済みのページに、以下のようにパラメタを付けてアクセスします。この例は、タイトルに「Power」と「CMS」を両方含む記事の検索結果を返します。

```
entries.html?_filter=entry&_filter_value_title[]='Power'&_filter_value_title[]='CMS'&_filter_cond_title[]='ct'&_filter_cond_title[]='ct'
```

パラメタ	説明・値
_filter	検索するモデル名
_filter_value_[カラム名][]	検索するカラムに対する検索文字列や数値を指定します。配列(末尾に[]を付与)として指定してください。複数の値が渡せます。
_filter_cond_[カラム名][]	検索条件を指定します。ct は contains(含む)となります。 _filter_value_[カラム名][]に渡した値の数分指定の必要があります。
_filter_and_or_[カラム名]	「AND」または「OR」を指定可能です。管理画面のフィルタは常に AND 検索となります、代わりに OR を指定すると、OR 検索となります(配列ではなく、1つのみ指定できます)。
_filter_and_or	複数のカラムを検索対象とするとき、AND 検索か OR 検索かを指定します(配列ではなく、1つのみ指定できます)。

## 指定可能な検索条件

パラメタ	説明
ct	Contains (含む)
nc	Not Contains (含まない)
eq	Equal (等しい)
ne	Not Equal (等しくない)
bw	Begin with (から始まる)

## ページ分割とページ送りを実装する

作成したビューにページ送りとページ分割を実装します。

```
<mt:setvar name="limit" value="20">
<mt:var name="request.offset" setvar="offset">
<mtEntries limit="$limit" offset="$offset" sort_by="published_on"
sort_order="descend">
<mt:if name="__first__">
<mt:setvar name="has_entry" value="1">
<mt:var name="object_count"> 件がマッチしました。
<mt:for from="0" to="$object_count" step="$limit" glue=" | ">
<mt:if name="current_page" eq="$__counter__">
<strong><mt:var name="__counter__"></strong>
<mt:else>
<a href="/entries.html?offset=<mt:var name="__value__">&<mt:query
excludes="offset" escape>"><mt:var name="__counter__"></a>
</mt:if>
</mt:for>
<ul>
```

```

</mt:if>
<li><a href="

```

オブジェクトの一覧を表示するブロックタグに offset タグ属性を付与した時、以下のテンプレート変数がセットされます。

変数名	説明・値
current_page	一連のページ送りの現在何ページ目にいるか
object_count	検索条件にマッチしたオブジェクトの総数
offset_last	ページ送りの最後のページの offset 値
next_offset	次のページに渡す offset 値
prev_offset	前のページに渡す offset 値

## 添付ファイル

モデルに添付ファイルを設定すると、1つのオブジェクトに複数の「添付ファイル」を追加できるようになります。添付ファイルを利用するには、モデルの設定画面のオプション「添付ファイル」にチェックを入れて、設定を保存します(attachmentfiles というリレーションカラムが作成されます)。



添付ファイルの実態は1対多のリレーションですが、他のオブジェクトの関連付けと異なり、以下の特徴があります。

- オブジェクトにステータスカラムがあるとき、有効・無効もしくは、公開ステータスと連動します
- 参照元オブジェクトが無効もしくは公開以外のステータスの時、ファイルは出力されません
- 参照元オブジェクトが有効化された時、公開された時、同時にファイルが出力されます
- 参照元オブジェクトが削除された時、添付ファイルオブジェクトも同時に削除されます

添付ファイルオブジェクトが参照され、リレーションによって関連付けられるのは常に1つのオブジェクトからのみとなりますので、以下のような用途に向いています。

- IR情報、決算公告などの公開と同時にPDFファイルを公開する
- キャンペーンの開始と同時にバナー画像を公開する
- ファイルとページを同時公開した後、ページが削除された時にゴミファイルが残るのを防ぐ※

※公開された添付ファイルへのリンクを常にテンプレート・タグから出力するようにすれば(他のオブジェクトのリッチテキスト欄などでのリンクを設定しなければ)、ゴミファイルが残るのを防ぐとともに、リンク切れも防げます。

## オブジェクトに添付ファイルを付ける

添付ファイル欄にファイルをドラッグ&ドロップします。



- ドラッグ&ドロップした添付ファイルは、参照元オブジェクトを保存するまで保存されません

- 参照元オブジェクトが保存され、添付ファイルオブジェクトが保存されるまで、添付ファイルの URL は設定されません
- 「ビュー」アイコンまたは「ダウンロード」アイコンをクリックすると、添付ファイルの内容を見たり、確認できます
- 「鉛筆」アイコンをクリックすると、添付ファイルに代替テキストやラベルに使える「名前」を設定できます(名前が設定されるのは添付元オブジェクトを保存した時です)
- 「×」アイコンをクリックすると、参照元オブジェクト保存時に添付ファイルを削除します
- ドラッグ&ドロップで、添付ファイルの出力順を設定することが可能です

## 添付ファイルの情報をテンプレート出力する(記事の場合)

```
<mt:entryattachmentfiles include_draft="1">
  ファイルの URL => <mt:attachmentfilefileurl />
  ファイルの名前(ラベル・代替テキスト) => <mt:attachmentfilename>
  ファイルのサムネイル => <mt:assetthumbnailurl name="file" width="120" />
</mt:entryattachmentfiles>
```

※参照元オブジェクトが保存され、添付ファイルオブジェクトが保存されるまで、アップロードした添付ファイルの情報は、プレビュー時にはビューに反映されません。

※include\_draft タグ属性を付けない場合、下書きオブジェクトのプレビュー時に添付ファイル情報が取得できません。

※モデル名+attachfiles ブロックタグでは、class タグ属性が利用できます。指定できる値は「image」「video」「audio」「pdf」「file」です。

## 一つのモデルに複数の添付ファイル欄を設定する

モデル「添付ファイル」に対するリレーション型のカラムを作成すると、同一モデルに複数の添付ファイルフィールドを設定できます。

- カラム名/ラベル：任意の名前
- タイプ：リレーション
- 編集表示：リレーション
- モデル：添付ファイル
- カラム：「名前」
- タイプ：「添付ファイル」

## モデルと添付ファイルとの 1 対 1 の関連付け

リレーション型のカラムではなく、数値型のカラムを作成して、編集表示「リレーション」、モデル「添付ファイル」型のカラムを作成すると、バイナリ/ファイル型のカラムと同じインターフェイスで画像の編集などが可能な編集画面が作られます。



上の 2 つのカラムはまったく同じインターフェイスで、画像編集などまったく同じように動作しますが、上のカラムはバイナリ型カラム、下のカラムは数値型カラム、添付ファイルへのリレーションです。このカラムを活用することで、オブジェクトが肥大化して検索速度・パフォーマンス低下を最小限にしながら 1 つのオブジェクトに複数の添付ファイルをつけることができるようになります。

## 未来日のプレビュー

LivePreview プラグインを有効化すると、PowerCMS X で管理している Web サイトを未来の特定の日時の状態でプレビュー確認することができるようになります。

ライブプレビューを行うためには、画像などを含む全てのリクエストに対して、pt-view.php へのリライトの設定をする必要があります。

```
RewriteEngine On  
RewriteCond %{REQUEST_URI} !/pt-view.php  
RewriteRule ^(.*)$ /powercmsx/site/pt-view.php
```

## プラグインの有効化

LivePreview プラグインを有効化するには、システムの「ツール」メニューから「プラグイン管理」に移動して、「プラグインを有効化」リンクをクリックするか、LivePreview プラグインのチェックボックスを選択して「有効」ボタンをクリックします。



※プラグインを有効化した後、もしくはプラグインの設定(承認待ちを含むかどうか、および日付ベースアーカイブの設定)を変更した後は、サイト全体を再構築する必要があります。

※ライブプレビューが行えるには、専用の権限が必要です。管理者でないユーザーにライブプレビューを許可するには、システムのロールに「ライブプレビュー」のチェックを追加してください。

※[制限事項]LivePreview プラグインが有効な状態で再構築を行うと、記事などをコンテナに指定しているアーカイブで、本来公開されないファイルが生成されることがあります。例えば、公開予約されている記事や承認待ちの記事のみで構成される日付アーカイブやカテゴリー・アーカイブなどです。但し、未公開の記事などの情報はファイルには出力されず、LivePreview の実行時にのみ情報が表示されます。

## プラグインの設定

プラグインの管理画面の「設定」ボタンをクリックして、プラグインの設定を行います。

設定名	説明
設定ページの URL	管理画面と公開サイトのドメインが異なる時、LivePreview 用のクッキーが正しく保存されないため、公開サイトのドメイン配下に LivePreview 設定用のファイルを設置する必要があります。 設定用のページとファイルは plugins/LivePreview/static/ livepreview.html 及び plugins/LivePreview/static/assets ディレクトリです。尚、LivePreview を行うドメイン配下でログイン状態とする必要があります。
日付ベースアーカイブ	日付ベースアーカイブを設定しているモデル名をカンマ区切りで指定します。
承認待ちを含む	有効にしていない場合、公開予約指定のオブジェクトのみが対象となります。
挿入する HTML	LivePreview 実行時に HTML を動的に指定した HTML コードを </body> タグの直前に挿入します。



## LivePreview の有効化

システムメニューの「ツール」から「ライブプレビュー」を選択して、日付を設定して「日付と時刻をセット」をクリックします。LivePreview 用のクッキーが設定されます。クッキーの有効期限は、ブラウザを終了するまでです。設定をクリアするには同じ画面から「日付と時刻をクリア」をクリックします。



## LivePreview によって置き換わる範囲

ページそのものだけでなく、以下の範囲で、未来の日付のサイトを再現します。

- アーカイブ一覧、ステータス設定のあるオブジェクトの一覧
- リレーション設定による関連オブジェクトの一覧
- オブジェクトにリビジョンの設定のある場合、差し替え予定のオブジェクトのデータ及び添付ファイルデータ(画像のサムネイルを含む)
- 階層付きオブジェクトのリスト
- メニューのアイテム一覧

## 挿入する HTML のサンプル

現在ライブプレビュー中であることを設定・日付を含めて画面中央に半透明レイヤーで表示するビューの例を示します。

```
<mt:ifLivePreview>
<div style="z-index: 100000;background-color:#b0e0e6;opacity:0.6;position:fixed;top:0px;right: 0px;bottom: 0px;left: 0px;margin: auto;padding-top: 1em;padding-bottom: 2.5em;width: 500px;height:30px;text-align: center;">
  <mt:trans phrase="Live Preview Date" component="LivePreview"><mt:ifLivePreviewInPending>(<mt:trans phrase="Include status in Approval Pending" component="LivePreview">)</mt:ifLivePreviewInPending> : <mt:LivePreviewDate format_ts="Y-m-d H:i:s">
</div>
</mt:ifLivePreview>
```



# リッチテキストエディタ



PowerCMS X のリッチテキストエディタは、TinyMCE が使われています。

<https://www.tiny.cloud>

## プラグインの有効化とカスタマイズ

リッチテキストエディタをカスタマイズするために、TinyMCE プラグインを有効化します。システムメニューの「ツール」→「プラグイン管理」から、TinyMCE を有効化します。

名前	概要	バージョン	設定
Minifier	HTML, JavaScript, CSSコードを圧縮します。 作成者 : Alfasado Inc.	1.0	
SiteMap	サイトマップ・ダッシュボードを追加します。 作成者 : Alfasado Inc.	1.0	
TinyMCE	WYSIWYGエディタのカスタマイズ機能を提供します。 作成者 : Alfasado Inc.	1.0	<button>設定</button>
名前	概要	バージョン	設定

プラグイン管理 [ダッシュボードへ](#)

プラグインを有効化しました。

1件のスキーマアップグレードが見つかりました。[\(スキーマのアップグレード\)](#)

その後、「スキーマのアップグレード」リンクをクリックし、スキーマをアップグレードします。

アップグレード後、システムメニューまたはワークスペースメニューの「ツール」→「プラグイン設定」→「TinyMCE」をクリックして、ボタンやプラグインをカスタマイズできるようになります。



「モバイルモードを有効にする」にチェックを入れると、iPhone+Safari または Android + Chrome の時、TinyMCE のモバイルテーマが適用されるようになります。

## エディタひな形の作成と利用

プラグインを有効化し、スキーマをアップグレードすると、システムメニューまたはワークスペースのメニュー→「システムオブジェクト」→「エディタひな形」が利用可能になります。ここからエディタひな形を登録します。



リッチテキストエディタのツールバーの「テンプレートの挿入」ボタンから登録したエディタひな形を呼び出すことができるようになります。



PowerCMS X

新着情報

新しい記事 [一覧に戻る](#) [ダッシュボードへ](#)

画面オプション

タイプ テンプレートの挿入 ×

テンプレート名 装飾付き見出し(2) ▾

ト ▼

編集 ▲

見出し2

見出し1

ト ▼